

第18回(令和6年度 第1回)

和泉市立総合医療センター 経営評価委員会

次 第

日時: 令和6年8月30日(金) 午後2時00分～

場所: 和泉市立総合医療センター 3階講堂

<開 会>

令和5年度第17回(前回)の指摘事項及び回答 … (資料1)

<議 題>

- ①令和5年度 運営状況 … (資料2)
- ②令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート … (資料3)
- ③令和5年度 答申(案)について … (資料4)
- ④和泉市立病院 新改革プラン(平成28年度～令和5年度)総括 … (資料5)
- ⑤令和6年度 諮問について … (資料6)
- ⑥和泉市立総合医療センター … (資料7)
経営強化プラン進行管理(PDCA)チェックシート 兼経営評価シート(案)について

<資 料>

委員・出席者名簿

- 資料1 令和5年度第17回(前回)の指摘事項及び回答
- 資料2 和泉市立総合医療センター運営事業 令和5年度 運営状況
- 資料3 令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート
- 資料4 令和5年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況の評価について(答申)(案)
- 資料5 和泉市立病院 新改革プラン(平成28年度～令和5年度)総括
- 資料6 令和6年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況及び和泉市立総合医療センター経営強化プラン実施状況の評価について(諮問)
- 資料7 和泉市立総合医療センター経営強化プラン
進行管理(PDCA)チェックシート 兼経営評価シート(案)について

<参考資料>

- 参考資料1 和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則
- 参考資料2 和泉市立病院 新改革プラン
- 参考資料3 和泉市消防本部 救急搬送件数
- 参考資料4 診療科別 紹介患者数
- 参考資料5 診療科別 逆紹介患者数
- 参考資料6 診療科別単価 前年度比較
- 参考資料7 患者待ち時間状況
- 参考資料8 和泉市立総合医療センター経営強化プラン

委員名簿

委員長

(敬称略)

氏名	所属
高杉 豊	公益財団法人 大阪国際がん治療財団名誉理事長兼顧問

委員

(敬称略・50音順)

氏名	所属
鹿島 洋一	特定医療法人新仁会 新仁会病院 理事長
木村 佳弘	桃山学院大学 経済学部 経済学科 准教授
辻 幸代	関西医療大学 保健看護学部 学部長・学科長
露口 六彦	税理士法人パートナーズ関西 代表(会長) 税理士
吉岡 敏治	森ノ宮医療大学 副学長

出席者名簿

和泉市立総合医療センター（指定管理者）

（敬称略・順不同）

氏名	所属
光富 徹哉	和泉市立総合医療センター 総長
松下 晴彦	和泉市立総合医療センター 病院長
川口 いずみ	和泉市立総合医療センター 看護部長
岩谷 理佳子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
澤村 明子	和泉市立総合医療センター 副看護部長
隈崎 聡美	和泉市立総合医療センター 医療安全室長
竹原 浩二	和泉市立総合医療センター 事務部長
古賀 栄司	和泉市立総合医療センター 事務次長
八巻 真弓	和泉市立総合医療センター 医事課 課長補佐
大西 拓也	和泉市立総合医療センター 総務課 課長補佐
山西 護	和泉市立総合医療センター 総務課 係長

和泉市

氏名	所属
吉田 康人	副市長
藤原 一也	子育て健康部長
高橋 直継	子育て健康部健康づくり推進室長
山本 国央	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当課長
井上 昇二	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主幹
若松 良和	子育て健康部健康づくり推進室病院経営管理担当総括主査

【令和5年度第17回（前回）の指摘事項及び回答】

No.	発言者	指摘	当日の回答	改善策
1	吉岡委員 露口委員	令和6年度から規制が始まる医師の時間外労働ですけれども時間とか把握されているかどうか。	エクセルで時間を把握するようにはしています。結構個人差はありますが、960時間以内には十分収まる時間にはなっています。資料は出すようにさせていただきます。	参考資料 別表（裏面）
2	高杉委員長 吉岡委員 露口委員	救急搬送の目標数値は達成できていない。	救急搬送された場合には、3割から5割の患者さんが入院されることになる。満床ストロップとなる状況が非常に申し訳ないけど起こっている。	救急搬送受入れを増やすには、在院日数を減らして、病床の回転数を増やし空床を増やしたい。しかし、急性期の治療は一段落つけないと、次の判断が出来ず、週末を挟んでの交渉となり在院日数は10日ぐらいいになる。これ以上の空床確保は難しい。
3	木村委員	医薬品費が20%近い増加となっているが、プランの指定管理者収支計画書では見込まれている。	高額医薬品がたくさん出回っております。特にがんの治療、それから難病、神経難病の治療にすごく高額な医療費になる。	国による薬価、診療報酬改定によるもので、未来の予測は見込めない。
4	鹿島委員	令和5年度はもう17億という経常利益、お金をどう使うのか。市民の為に使ってもらえれば。	増築を予定しておりますし、約2年間で増築ということも考えています。利益を少しでも地域に、恩返しといいますか、利用ができればという思いです。	増築工事期間中も駐車場誘導など市民に支障をきたさぬ様に対策を行い、従来通りの診療等が行えるように対応します。また、来院者用駐車場の増設を行いました。
5	高杉委員長 木村委員 辻委員	評価シートについて、具体的に評価しやすいような形で示していただければと思います。	経営強化プランをもとに評価項目、改めて見直しをさせていただいた上で再度、評価に対する点数等を先生方にも評価いただきたいと考えています。	案を提示（議題6）
6	辻委員	プランで病床稼働率から病床利用率に変更されている。変更するのか。	評価の仕方の中でどれを見えて評価していくのかっていうのは非常に難しい部分がある。両方ともバラバラに使っている病院っていうのはあります。	他病院との比較において利用率が使われているが、実情を表す数字としては両方を用いています。説明時に適した数字を記載します。
7	副市長	①時間外労働の評価において、資料の提出の仕方を検討 ②今後の方針において、どこまでやるのか記載が無い（前回指摘事項及び回答） ③評価は目標値に対し行う。前年度評価ではない、	挨拶	①項目1と同じ ②対応を記載 ③議題6で提示

別表

令和6年4月～6月

時間外人数		時間数	人数	割合
1,000時間以上				
960時間以上	1,000時間未満			
900時間以上	960時間未満			
800時間以上	900時間未満			
700時間以上	800時間未満			
600時間以上	700時間未満			
480時間以上	600時間未満			
	480時間未満			
合計				

時間外人数		時間数	人数	割合
240時間以上			3	2.08%
220時間以上	240時間未満		3	2.08%
200時間以上	220時間未満		6	4.17%
180時間以上	200時間未満		4	2.78%
160時間以上	180時間未満		5	3.47%
140時間以上	160時間未満		11	7.64%
	140時間未満		112	77.78%
合計			144	100.00%

和泉市立総合医療センター運営事業
令和5年度
運営状況

目 次

1. 令和5年度 事業計画	1
2. 医療機能に係る指標	1
1. 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分	
①患者数の前年度実績との比較	
②月別1日あたり患者数の推移(入院)	
③月別1日あたり患者数の推移(外来)	
④診療科別1日あたり患者数(入院)	
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)	
⑥病床稼働率	
⑦診療単価	
⑧救急患者受入数	
⑨和泉市消防本部 救急搬送	
2. その他、医療機能に係る指標	
①平均在院日数	
②紹介率、逆紹介率	
③手術者数	
④健診	
⑤医療事故等への対応	
3. 職員数	8
①職員数の推移(非常勤職員含む)	
4. 患者サービス向上に係る取り組み	9
①令和5年度取り組み	
②令和5年度提案ポストへの投書件数	
5. 経営健全化に係る指標	11
①損益計算書	
②貸借対照表	

1. 令和5年度 事業計画

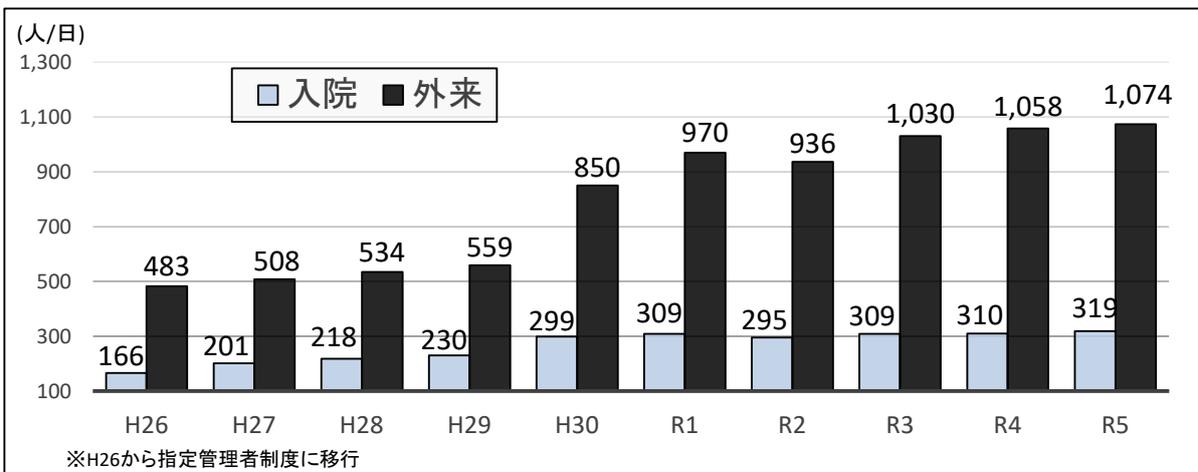
- ・主な取り組み
医師確保、急性期医療の拡充、がん医療を中心とした高度専門医療の拡大、医療機器整備等により医療機能強化
- ・1日あたり患者数
入院 292名(退院日の患者数を含む)
外来 1,008名

2. 医療機能に係る指標

1. 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分

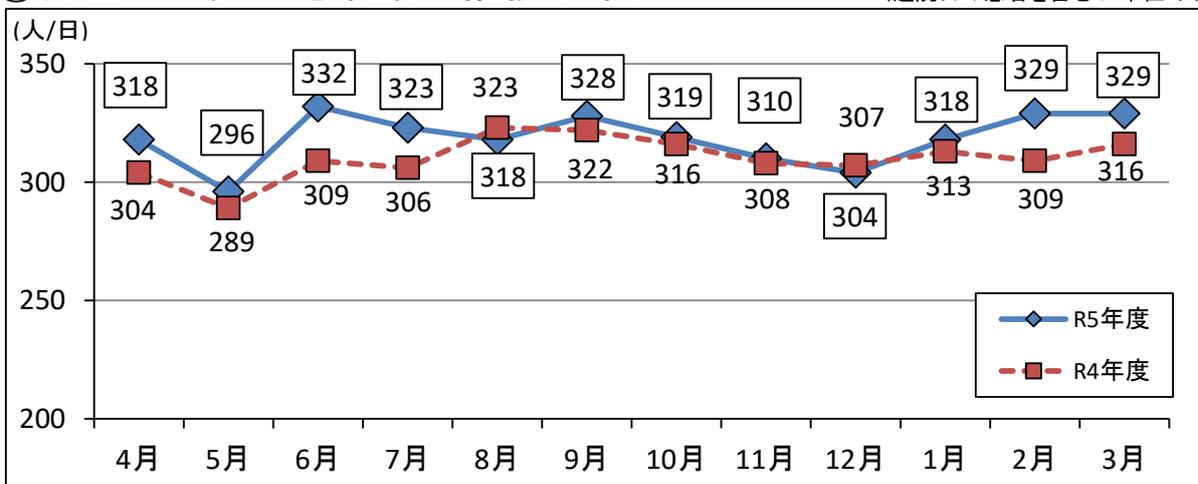
①患者数の前年度実績との比較

	実績			令和5年度 新改革プラン 目標値
	令和5年度	令和4年度	比較(増減率)	
1日あたり入院患者数 (退院日の患者を含む)	319人	310人	9人 (+3.0%)	292人
1日あたり外来患者数	1,074人	1,058人	16人 (+1.5%)	1,008人



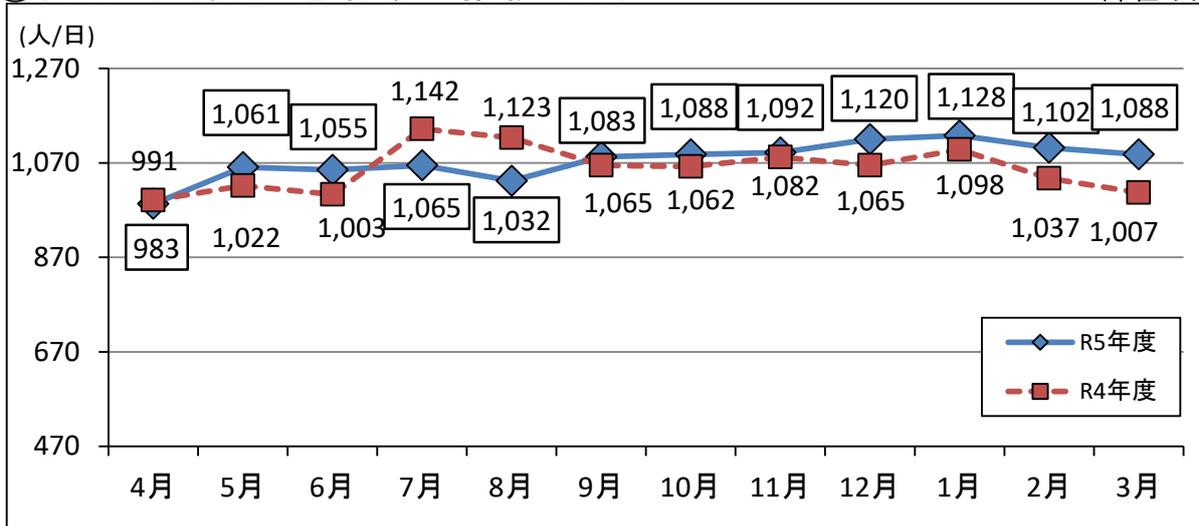
②月別1日あたり患者数の推移(入院)

(退院日の患者を含む / 単位: 人)



③月別1日あたり患者数の推移(外来)

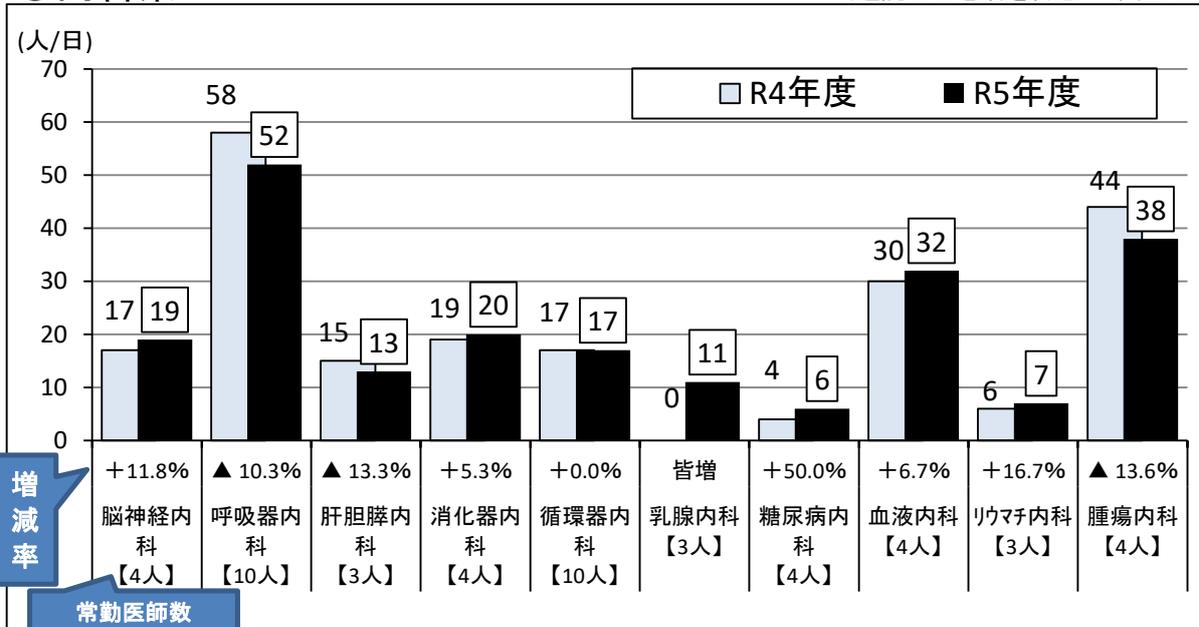
(単位:人)



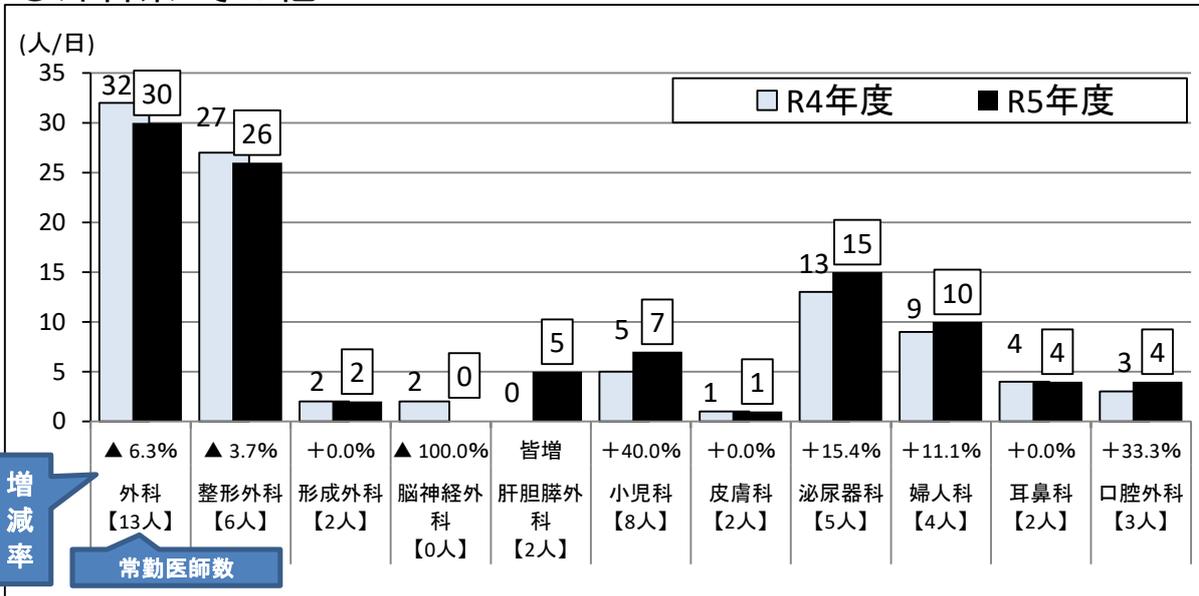
④診療科別 1日あたり患者数(入院)

○内科系

(退院日の患者を含む / 単位:人)



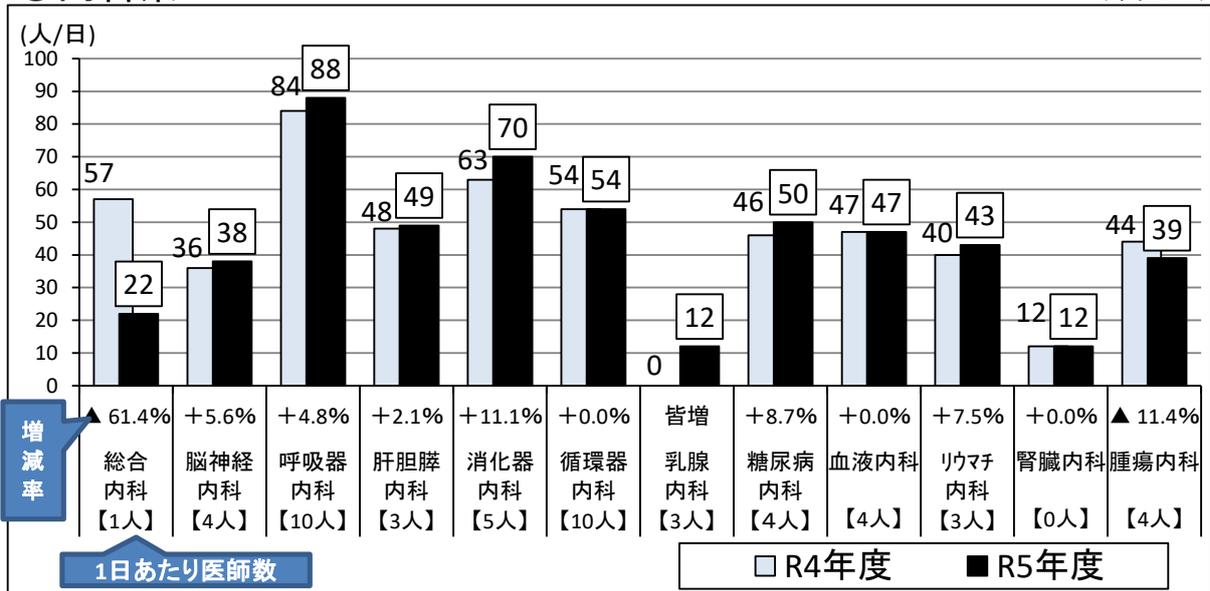
○外科系・その他



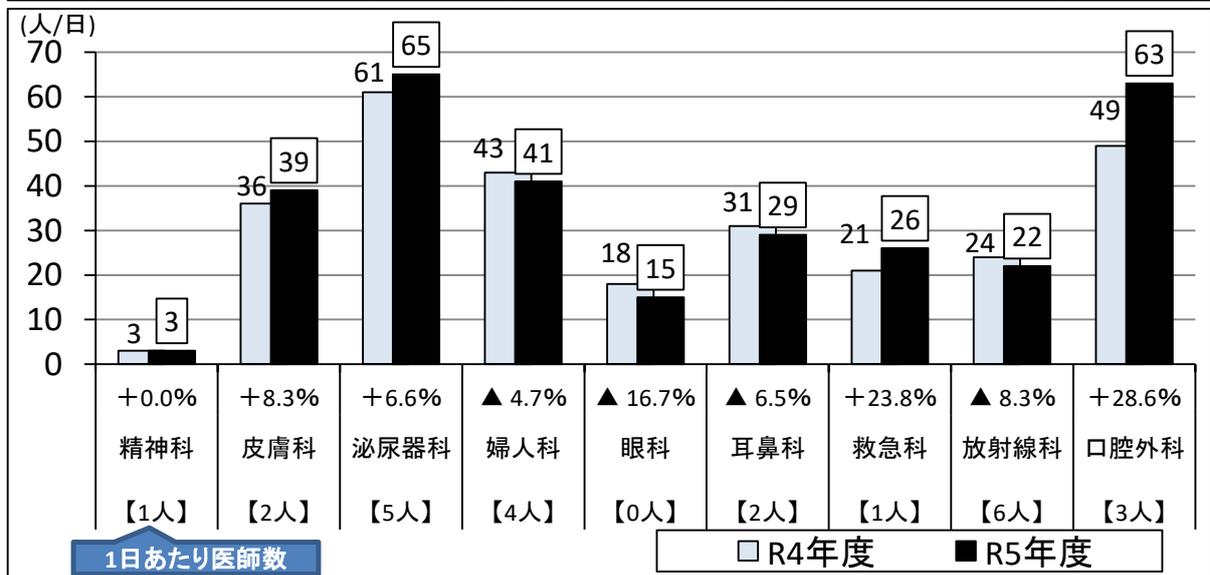
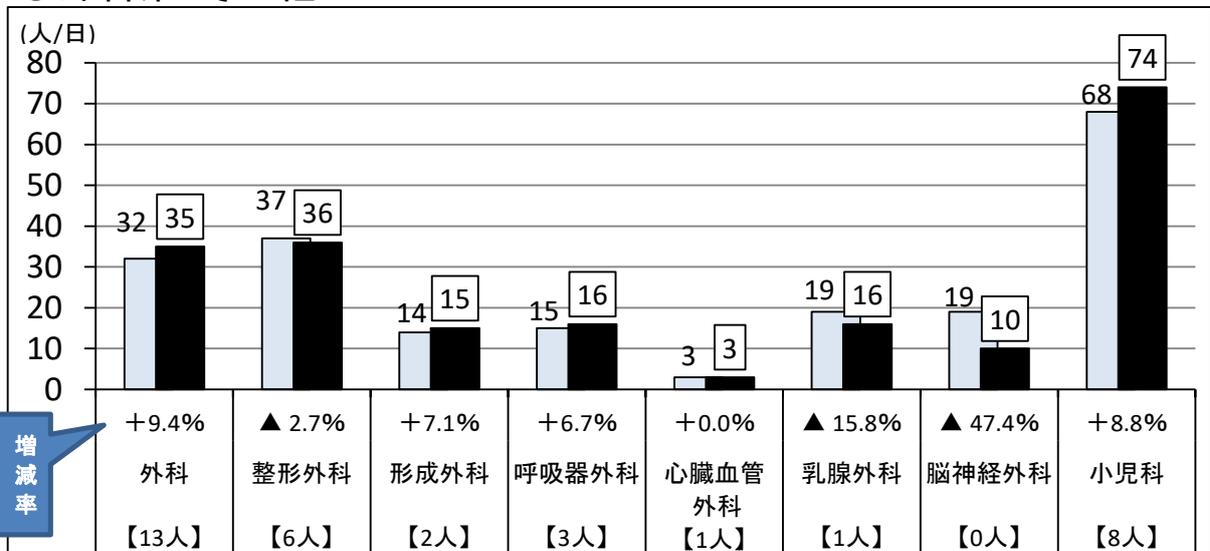
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)

○内科系

(単位:人)



○外科系・その他



※診療日が5日未満の診療科は実診療日で算出

⑥病床稼働率

(単位:人、床、日、%)

年度	稼働率	新改革プラン 目標値	延患者数 ÷ (許可病床数 × 日数) × 100
令和5年度	103.8 %	95.0 %	116,602 ÷ (307 × 366) × 100
令和4年度	101.1 %	95.0 %	113,248 ÷ (307 × 365) × 100

⑦診療単価

	実 績			令和5年度 新改革プラン 目標値
	令和5年度	令和4年度	比較(増減率)	
入院診療単価 (退院日の患者を含む)	78,879円	77,726円	1,153円 (+1.5%)	73,000円
外来診療単価	24,378円	24,172円	206円 (+0.9%)	23,000円

⑧救急患者受入数

(単位:人、%)

診療科	実 績		前年度 比較	実 施 状 況
	令和5年度	令和4年度		
小児科	3,335	2,748	+587 (+21.4)	毎週火曜日19:00～翌6:00 第2,4,5土曜日23:00～翌6:00
内科系 外科系	10,770	11,104	▲334 (▲3.0)	終日実施
合 計	14,105	13,852	+253 (+1.8)	
搬送者数	3,791	3,598	+193 (+5.4)	
搬送者の うち入院	1,198 (31.6%)	1,187 (33.0%)	11 (+0.9)	

⑨和泉市消防本部 救急搬送

(単位:人、%)

区分	令和5年度	搬送率	令和4年度	搬送率	前年度比較 (増減率)	令和5年度 新改革プラン 目標値	搬送率
和泉市立 総合医療センター	2,388	23.0	2,185	22.5	+203 (+9.3)	2,240	28.0
市内民間病院	3,818	36.7	3,796	39.0	+22 (+0.6)		
市 外	4,182	40.3	3,748	38.5	+434 (+11.6)		
合 計	10,388		9,729		+659 (+6.8)		

(和泉市消防本部統計より)

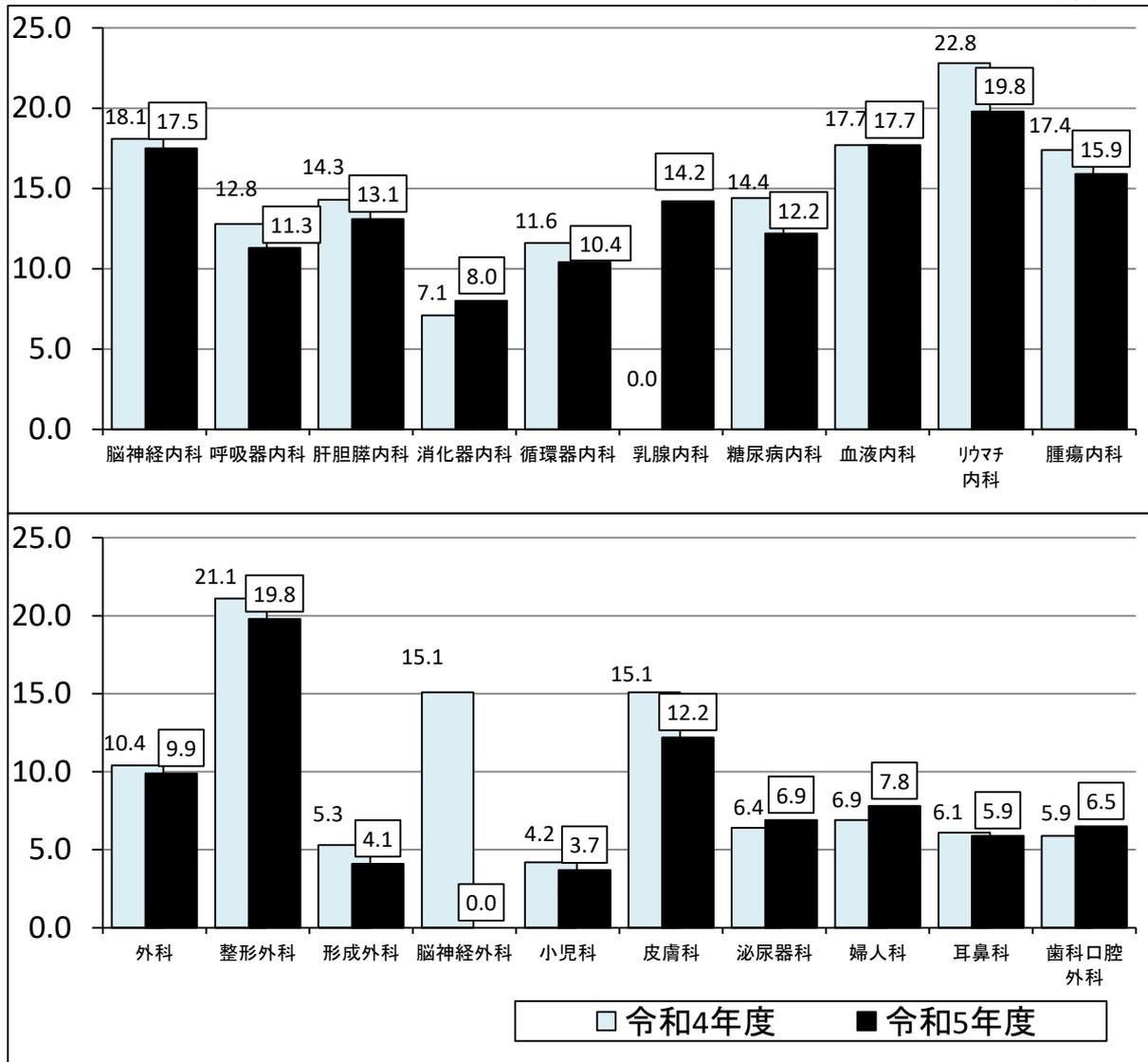
2. その他、医療機能に係る指標

① 平均在院日数

(単位:日)

	令和5年度	令和4年度	増減
全診療科平均	11.0	11.7	▲ 0.7

(単位:日)



②紹介率、逆紹介率

	令和5年度	令和4年度	差
紹介率	66.6 %	72.9 %	▲6.3%
逆紹介率	86.1 %	91.7 %	▲5.6%

③手術件数

(単位:人、%)

指 標	令和5年度		令和4年度		差		増減率(%)		
	うち全麻		うち全麻		うち全麻		うち全麻		
手術数	外科	1,123	1,060	958	908	+165	+152	+17.2	16.7
	整形外科	470	461	451	443	+19	+18	+4.2	4.1
	婦人科	259	251	276	266	▲17	▲15	▲6.2	▲5.6
	皮膚科	45	0	58	1	▲13	▲1	▲22.4	皆減
	形成外科	352	65	333	76	+19	▲11	+5.7	▲14.5
	泌尿器科	560	247	492	212	+68	+35	+13.8	16.5
	脳神経外科	0	0	7	1	▲7	▲1	皆減	皆減
	心臓血管外科	25	0	24	1	+1	▲1	+4.2	皆減
	耳鼻いんこう科	145	141	149	132	▲4	+9	▲2.7	6.8
	歯科口腔外科	231	163	129	129	+102	+34	+79.1	26.4
	合計	3,210	2,388	2,877	2,169	+333	+219	+11.6	10.1

④健診

(単位:人、%)

指 標	令和5年度	令和4年度	差	増減率
人間ドック	2,251	2,101	+150	+7.1%
特定健診	1,331	1,210	+121	+10.0%

⑤医療事故等への対応

○レベル別件数

(単位:件)

	レベル	職種	令和5年度	令和4年度	事例(本年度)
インシデント	0～3a	医師	203	132	・転倒・転落後様子観察 ・点滴流量間違い ・内服薬服薬間違い ・点滴ルート自己抜去 ・胃管・バルンカテーテル自己抜去 ・患者誤認(検査案内など) ・血糖測定・採血取り忘れ等
		看護師	2,616	2,027	
		薬剤師	95	84	
		放射線技師	101	76	
		臨床検査技師	29	28	
		リハビリ	52	66	
		その他	292	236	
		計	3,388	2,649	
アクシデント (医療事故)	3b	医師	7	11	<重複事例報告あり> ・転倒・転落・体位変換などによる骨折 など 11件 ・処置・手術関連合併症 4件 ・治療・経過観察中の状態変化 4件
		看護師	10	19	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	2	1	
		その他	0	0	
		計	19	31	
	4a～5	医師	1	0	・食道誤挿管
		看護師	0	0	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
		その他	0	0	
		計	1	0	
	計 (3b～5)	医師	8	11	
		看護師	10	19	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
臨床検査技師		0	0		
リハビリ		2	1		
その他		0	0		
計		20	31		

※その他内訳:
栄養科、ME

○種類別件数

(単位:件)

概要	令和5年度	令和4年度	増減
薬剤	1,111	788	323
輸血	26	14	12
治療・処置	140	101	39
医療機器等	140	109	31
ドレーン・チューブ	217	215	2
検査	336	301	35
療養上の世話	672	477	195
その他	766	675	91
合計	3,408	2,680	728

(参考) 医療事故レベル

※国立大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針に準じる

インシデント	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響は与えた可能性は否定できない)
	2	処置や治療行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性が生じた)
	3a	単純な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	4a	永続的な障害が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

3. 職員数

①職員数の推移(非常勤職員含む)

■職員数の推移

(単位:人)

	R6.4	R6.3	R5.4	R4.4	R3.4	R2.4
医師	158.16	148.80	147.59	133.20	136.88	125.64
常勤	140	131	131	121	120	111
非常勤 (常勤換算)	139 (18.16)	143 (17.80)	135 (16.59)	121 (12.20)	129 (16.88)	127 (14.64)
看護部	402.22	384.09	397.84	398.50	391.07	377.86
常勤	377	358	372	370	363	359
非常勤 (常勤換算)	32 (25.22)	33 (26.09)	31 (25.84)	35 (28.50)	32 (28.07)	32 (18.86)
医療技術職	161.95	150.95	157.53	149.80	135.97	125.25
常勤	156	145	153	144	130	120
非常勤 (常勤換算)	8 (5.95)	8 (5.95)	6 (4.53)	8 (5.80)	9 (5.97)	8 (5.25)
合計	722.33	683.84	702.96	681.50	663.92	628.75
常勤	673	634	656	635	613	590
非常勤 (常勤換算)	179 (49.33)	184 (49.84)	172 (46.96)	164 (46.50)	170 (50.92)	167 (38.75)

※ 常勤換算人員は $\frac{\text{勤務時間}}{7.5 \text{ 時間}} \div \left(\frac{1 \text{ 日の勤務時間(常勤)}}{7.5 \text{ 時間}} \times \frac{\text{月間勤務日数(常勤)}}{21.67 \text{ 日}} \right)$

■常勤医師の状況

(単位:人)

	R6.4	R6.3	R5.4	R4.4	R3.4	R2.4
内科	1	1	2	1	1	1
循環器内科	10	10	10	9	8	7
呼吸器内科	10	10	10	9	7	8
消化器内科(内視鏡)	8	5	5	3	2	3
肝胆膵内科	3	3	3	3	3	3
血液内科	5	4	4	4	4	4
内分泌・糖尿病内科	4	4	3	2	4	4
脳神経内科	6	4	4	3	4	3
乳腺内科	3	3	3			
腫瘍内科	3	4	4	9	8	8
緩和ケア内科	2	2	2	1	1	1
外科	15	15	15	15	15	13
消化器外科	8	8	8	8	8	8
心臓血管外科	0	1	1	1	1	1
乳腺外科	1	1	1	2	2	1
呼吸器外科	4	3	3	4	4	3
肝胆膵外科	2	2	2			
形成外科	3	2	2	1	1	1
整形外科	6	6	6	6	6	6
小児科	8	8	8	8	7	6
脳神経外科	1	0	0	1	2	2
泌尿器科	5	5	6	5	5	5
皮膚科	3	2	2	3	3	3
婦人科	4	4	4	4	4	5
耳鼻いんこう科	1	2	2	2	3	2
リウマチ内科	3	3	3	3	3	3
救急科	1	1	1	1	0	0
リハビリテーション科	1					
放射線科	6	6	6	6	6	6
精神科	1	1	1	1	1	1
麻酔科	6	5	5	3	5	4
病理診断科	3	3	3	3	3	2
歯科口腔外科	3	3	3	2	2	2
研修医他	15	15	14	13	12	8
	140	131	131	121	120	111

4. 患者サービス向上に係る取り組み

①令和5年度取り組み

サービス	時期	主な内容
出前講座・医療講演 【継続】	4月～	健康づくりのためにより深い知識・情報を提供できるように「生活習慣病シリーズ」や「女性の健康シリーズ」と題し、テーマに沿った演題を継続して発信した。 また、市内小学校12校（計18回）で児童を対象とした「いのちの授業」を行うほか、教員を対象とした「エピペン講習会」や「一時救命処置講習会」を行い、医療と教育現場の連携強化を図った。さらに市内中学校1校、高校1校にて生徒を対象とした「がん教育」を行い、正しい知識の普及や予防の重要性、がん患者に対する理解促進を図った。
第4回 和泉の地域医療を考える シンポジウム 【継続】	10月	令和5年10月29日（日）に「“薬”からみえる地域医療～地域包括ケアシステムにおける多職種連携による在宅高齢者の服薬支援」をテーマに、和泉市内の医療、介護、行政関係者交え講演会並びに意見交換会（シンポジウム）を開催した。 内容としては、在宅高齢者の服薬における現状を共有し、「かかりつけ薬局・薬剤師」の役割や重要性、また、多職種連携を図るための情報ツールや実際の取組を紹介。その他、服薬支援を含む「日常生活支援」には市民への互助・共助の理解促進が必要不可欠であり、医療介護専門職のみならず地域全体で取り組むべき課題であることを認識する機会となった。
災害時医療訓練 【継続】	11月	平日午前5時、南海トラフ地震（和泉市 震度7）想定で、令和5年11月14日（火）に災害訓練を実施。73人の職員が参加し、限られた職員数での初期対応、衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、災害対策本部の立ち上げ、EMISへの入力、院内外の被害状況把握、救急外来の運営についての訓練を行った。

②令和5年度提案ポストへの投書件数

(単位:件)

区分	令和5年度	令和4年度	主な内容
総件数	211	236	
お礼	53	46	<ul style="list-style-type: none"> ■とても親切にいただきました。丁寧に説明していただき、後期高齢者にとっても分かりやすかったです。 ■入院当初夜間になると大部屋が騒がしく、部屋移動は申し訳ないと我慢していたところ、看護師が声をかけてくれ部屋移動をする事ができた。 ■主治医・病棟看護師・手術室看護師の丁寧なオリテや当日の気遣いある訪問で過度な緊張無く手術に臨むことができました。
苦情・要望等	158	190	
設備	42	48	<ul style="list-style-type: none"> ■階段から下りてきた職員が、勢いよくドアを開けぶつかりそうになる。職員が確認せずドアを開けるのがこわい。 ⇒【開閉注意】のサインを設置した。加え職員への全体周知を行い注意喚起を行った。 ■ペーパータオルを満タンに補充しないでほしい。 ⇒業者および職員へ周知した。補充量の目安の印を今後設置予定。
接遇	55	70	<ul style="list-style-type: none"> ■正面玄関が開く7時まで受付の整理券をもらうため並んでいると、時間外入口から入館してこられた患者さんに先に整理券を渡していた。真面目に外で待っている人に失礼ではないか。 ⇒正面玄関で並んでいる患者さんから整理券を配布するよう周知・徹底した。 ■病室のカーテンをきちんと閉めてほしい。 ⇒定期的に指摘のあるご意見である。大部屋の患者さんにとってはカーテンはドアと同じであることを深く理解し行動にうつすよう、看護部で日々指導している。
その他	61	72	<ul style="list-style-type: none"> ■食堂にてフライ定食を注文したところ、何日も衣をつけたまま冷蔵庫に入っていた固さであった。 ⇒手作りのため開店前に揚げて提供まで保温機で保温しているため水分が蒸発したと考えられる。保温や揚げ時間等を検討 ■透析で通院しているが、透析終了後昼食を食べようとしても食堂もコンビニも売り切れが多くて困る。朝一に食券を購入できると助かる。 ⇒栄養科と食堂運用業にて検討中。

5. 経営健全化に係る指標

①損益計算書(4月～3月)

(単位:千円)

科 目	令和5年度 (a)	令和4年度 (b)	前年度比 (a)-(b)	増減率 %
医業収益 (A)	15,739,170	15,214,090	525,080	3.5
入院収益	9,197,397	8,802,330	395,067	4.5
外来収益	6,317,823	6,072,045	245,778	4.0
その他医業収益	223,949	339,715	▲ 115,766	▲ 34.1
うち室料差額収益	139,307	131,398	7,909	6.0
うち文書料・その他	293,797	340,599	▲ 46,802	▲ 13.7
うち保険等査定減	▲ 209,155	▲ 132,282	▲ 76,873	58.1
医業費用 (B)	13,997,604	13,458,292	539,312	4.0
給与費	6,360,779	6,368,247	▲ 7,468	▲ 0.1
材料費	5,560,172	5,001,782	558,390	11.2
委託費	608,356	615,929	▲ 7,573	▲ 1.2
経費	775,706	833,266	▲ 57,560	▲ 6.9
研究研修費	28,633	18,181	10,452	57.5
控除対象外消費税	663,958	620,887	43,071	6.9
医業損益 (A)-(B)	1,741,565	1,755,798	▲ 14,233	▲ 0.8
医業外収益 (C)	328,135	1,208,049	▲ 879,914	▲ 72.8
うち運営費補助金収益	100,118	976,375	▲ 876,257	▲ 89.7
うちその他医業外収益	228,017	231,674	▲ 3,657	▲ 1.6
医業外費用 (D)	416,051	513,518	▲ 97,467	▲ 19.0
経常損益 ((A)+(C))-((B)+(D))	1,653,650	2,450,329	▲ 796,679	▲ 32.5
臨時収益 (E)	3,135	21,350	▲ 18,215	▲ 85.3
臨時費用 (F)	267,041	338,416	▲ 71,375	▲ 21.1
税引前利益 ((A)+(C)+(E))-((B)+(D)+(F))	1,389,744	2,133,263	▲ 743,519	▲ 34.9
医業収支比率 (A)÷(B)×100	112.4	113.0	▲ 0.6	
経常収支比率 ((A)+(C))÷((B)+(D))×100	111.5	117.5	▲ 6.0	
給与費率 (給与費)÷(A)×100	40.4	41.9	▲ 1.5	
材料費率 (材料費)÷(A)×100	35.3	32.9	2.4	
新改革プラン目標値(R5) 経常収支比率	109.0			

(うち医業費用明細) (4月~3月)

(単位:千円、%)

科 目	令和5年度		令和4年度		前年度比 (a)-(b)	増減率 %
	(a)	構成比 (%)	(b)	構成比 (%)		
医業費用	13,997,604	100.00	13,458,292	100.00	539,312	4.0
給与費	6,360,779	45.44	6,368,247	47.32	▲ 7,468	▲ 0.1
うち常勤職員給与	3,835,624	27.40	3,780,012	28.09	55,612	1.5
うち非常勤職員給与	902,503	6.45	825,523	6.13	76,980	9.3
うち法定福利費	717,939	5.13	697,864	5.19	20,075	2.9
うち賞与	791,957	5.66	855,016	6.35	▲ 63,059	▲ 7.4
うち退職金	89,229	0.64	86,174	0.64	3,055	3.5
材料費	5,560,172	39.72	5,001,782	37.17	558,390	11.2
うち医薬品費	3,955,966	28.26	3,444,666	25.60	511,300	14.8
うち医療消耗品費	1,096,810	7.84	1,036,719	7.70	60,091	5.8
うち検査材料費	361,864	2.59	376,915	2.80	▲ 15,051	▲ 4.0
委託費	608,356	4.35	615,929	4.58	▲ 7,573	▲ 1.2
うち検査委託費	143,643	1.03	139,019	1.03	4,624	3.3
うち給食委託費	67,911	0.49	67,911	0.50	0	0.0
うち医事委託費	10,719	0.08	10,605	0.08	114	1.1
うち清掃委託費	67,329	0.48	66,975	0.50	354	0.5
うち警備委託費	24,480	0.17	24,482	0.18	▲ 2	▲ 0.0
うち労務委託費	33,406	0.24	38,220	0.28	▲ 4,814	▲ 12.6
うち事務委託費	57,878	0.41	66,391	0.49	▲ 8,513	▲ 12.8
経費	775,706	5.54	833,266	6.19	▲ 57,560	▲ 6.9
うち消耗品費	18,915	0.14	17,036	0.13	1,879	11.0
うち消耗器具備品費	8,640	0.06	27,408	0.20	▲ 18,768	▲ 68.5
うち事務用品費	18,159	0.13	20,610	0.15	▲ 2,451	▲ 11.9
うち光熱水道費	145,269	1.04	177,090	1.32	▲ 31,821	▲ 18.0
うち広告宣伝費	8,867	0.06	8,531	0.06	336	3.9
うち募集費	13,845	0.10	14,241	0.11	▲ 396	▲ 2.8
うち保険料	13,347	0.10	13,106	0.10	241	1.8
うち寄付金	26,150	0.19	67,010	0.50	▲ 40,860	▲ 61.0
うち支払手数料	55,396	0.40	53,817	0.40	1,579	2.9
うち医療機器リース・レンタル料	57,739	0.41	53,532	0.40	4,207	7.9
うち減価償却費	60,487	0.43	60,716	0.45	▲ 229	▲ 0.4
うち修繕費	69,440	0.50	55,661	0.41	13,779	24.8
うち機器保守料	138,359	0.99	130,352	0.97	8,007	6.1
研究研修費	28,633	0.20	18,181	0.14	10,452	57.5
控除対象外消費税	663,958	4.73	620,887	4.61	43,071	6.9

②貸借対照表

(単位:千円)

科 目	R6.3.31現在(A)	R5.3.31現在(B)	増減(A)-(B)
【流動資産】	【 12,025,077 】	【 10,737,397 】	【 1,287,681 】
現金預金	70,213	14,514	55,698
医業未収入金	2,567,611	2,842,917	▲ 275,307
未収金	98,748	500,426	▲ 401,678
薬品	83,986	80,496	3,490
診療材料	30,004	36,720	▲ 6,716
その他貯蔵品	2,360	2,469	▲ 109
前払費用	20,002	20,201	▲ 199
貸倒引当金	△ 6,007	△ 8,096	2,089
大阪本部勘定	9,156,263	7,245,972	1,910,290
その他流動資産	1,898	1,777	121
【固定資産】	【 270,153 】	【 247,301 】	【 22,852 】
(有形固定資産)	(252,867)	(224,488)	(28,379)
建物	118,316	124,527	▲ 6,211
構築物	10,463	11,164	▲ 701
医療機器	62,490	74,466	▲ 11,976
その他器械備品	14,860	14,331	529
建設仮勘定	46,738	0	46,738
(無形固定資産)	(11,827)	(14,194)	(▲ 2,367)
他無形固定資産	11,827	14,194	▲ 2,367
(投資他資産)	(5,459)	(8,619)	(▲ 3,160)
保証金	4,188	4,290	▲ 102
長期前払費用	104	77	27
長期貸付金	1,167	4,252	▲ 3,085
【繰延資産】	【 9,328 】	【 12,128 】	【 ▲ 2,799 】
繰延消費税	9,328	12,128	▲ 2,799
資産合計	12,304,559	10,996,826	1,307,733
【流動負債】	【 2,028,785 】	【 2,163,520 】	【 ▲ 134,735 】
買掛金	1,410,129	1,413,179	▲ 3,050
未払給与	120,272	115,340	4,932
未払金	209,108	297,426	▲ 88,318
賞与引当金	232,395	278,894	▲ 46,499
預り金	56,771	58,646	▲ 1,875
前受収益	110	35	75
【固定負債】	【 411,501 】	【 358,778 】	【 52,723 】
退職給付引当金	411,401	358,678	52,723
その他固定負債	100	100	0
負債の部計	2,440,286	2,522,298	▲ 82,012
【積立金】	【 9,864,273 】	【 8,474,528 】	【 1,389,745 】
繰越利益積立金	9,864,273	8,474,528	1,389,745
(うち当期純利益)	(1,389,744)	(2,133,264)	▲ 743,520
純資産の部計	9,864,273	8,474,528	1,389,745
負債純資産合計	12,304,559	10,996,826	1,307,733

令和5年度 進行管理(PDCA)チェックシート

兼経営評価シート

(対象期間:令和5年4月1日～令和6年3月31日)

評価対象	NO	評価項目	第18回 R5 4-3月			第17回 R5 4-12月
			自己評価	市評価	答申 (委員会評価)	自己評価
運営 (基本的事項)	1	施設利用者数の状況について	10	10	10	10
	2	収支計画の達成状況について	10	10	10	10
医療サービス	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について	9	9	9	9
	4	救急医療体制の整備について	7	8	8	7
	5	地域医療機関との連携強化について	9	9	9	9
	6	高度・専門医療について	8	8	9	8
施設利用 サービス	7	待ち時間について	7	7	8	7
	8	職員の接遇について	7	7	7	7
危機管理	9	災害時医療の体制整備について	8	8	8	8
利用者の評価	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について	8	8	8	8
合計点数			83	84	86	83

評点の考え方	点数
優れている	9~10点
できている	7~8点
概ねできている	4~6点
やや劣っている	1~3点
劣っている	0点

評価項目	1	施設利用者数の状況について																	
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会														
	令和5年度(総括)	R6.8.30	10	10	10														
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	10	10															
	令和4年度(総括)	R5.8.30	10	10	10														
P(プラン) 令和5年度 事業計画	令和5年度(4~3月) ・1日あたり入院患者数 292人(退院患者含む) (病床稼働率 95.0%) ・1日あたり外来患者数 1,008人																		
D(実施状況)	<診療実績> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5実績 (4-3月)</th> <th>R5計画 (4-3月)</th> <th>R4 (4-3月)</th> <th>R3 (4-3月)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①1日あたり入院患者数 (病床稼働率)</td> <td>319人 (103.8%)</td> <td>292人 (95.0%)</td> <td>310人 (101.0%)</td> <td>309人 (100.6%)</td> </tr> <tr> <td>②1日あたり外来患者数</td> <td>1,074人</td> <td>1,008人</td> <td>1,058人</td> <td>1,030人</td> </tr> </tbody> </table>					R5実績 (4-3月)	R5計画 (4-3月)	R4 (4-3月)	R3 (4-3月)	①1日あたり入院患者数 (病床稼働率)	319人 (103.8%)	292人 (95.0%)	310人 (101.0%)	309人 (100.6%)	②1日あたり外来患者数	1,074人	1,008人	1,058人	1,030人
	R5実績 (4-3月)	R5計画 (4-3月)	R4 (4-3月)	R3 (4-3月)															
①1日あたり入院患者数 (病床稼働率)	319人 (103.8%)	292人 (95.0%)	310人 (101.0%)	309人 (100.6%)															
②1日あたり外来患者数	1,074人	1,008人	1,058人	1,030人															
C(自己評価の理由)	病床稼働率は100%を超える数字となっている。 外来についても、1日平均1,074人と順調な推移である。																		
A(今後の取り組み)	病棟は満床の状態が続いているため、平均在院日数の短縮を工夫し、より多くの患者様に当センターを利用いただけるよう体制を整備する。																		
市のコメント	入院・外来患者数ともに非常に好調である。 引き続き、現状の患者数を維持できるよう努められたい。																		

評価項目	2	収支計画の達成状況について																																
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																													
	令和5年度(総括)	R6.8.30	10	10	10																													
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	10	10																														
	令和4年度(総括)	R5.8.30	10	10	10																													
P(プラン) 令和5年度 事業計画	令和5年度 収支計画(4-3月) 経常収支比率109.0%																																	
D(実施状況)	<p><実績> 前年度と比較し、入院・外来患者数、診療単価ともに増加したことから、経常収支比率は111.5%となり、計画値より上回った。</p> <p>・診療実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R5計画(4-3月)</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①経常収支比率</td> <td>111.5%</td> <td>109.0%</td> <td>117.5%</td> <td>119.4%</td> </tr> <tr> <td>②入院診療単価</td> <td>78,879円</td> <td>73,000円</td> <td>77,726円</td> <td>71,879円</td> </tr> <tr> <td>③外来診療単価</td> <td>24,378円</td> <td>23,000円</td> <td>24,172円</td> <td>22,286円</td> </tr> <tr> <td>④給与費比率</td> <td>40.4%</td> <td></td> <td>41.9%</td> <td>44.0%</td> </tr> <tr> <td>⑤材料費比率</td> <td>35.3%</td> <td></td> <td>32.9%</td> <td>32.0%</td> </tr> </tbody> </table>					R5	R5計画(4-3月)	R4	R3	①経常収支比率	111.5%	109.0%	117.5%	119.4%	②入院診療単価	78,879円	73,000円	77,726円	71,879円	③外来診療単価	24,378円	23,000円	24,172円	22,286円	④給与費比率	40.4%		41.9%	44.0%	⑤材料費比率	35.3%		32.9%	32.0%
	R5	R5計画(4-3月)	R4	R3																														
①経常収支比率	111.5%	109.0%	117.5%	119.4%																														
②入院診療単価	78,879円	73,000円	77,726円	71,879円																														
③外来診療単価	24,378円	23,000円	24,172円	22,286円																														
④給与費比率	40.4%		41.9%	44.0%																														
⑤材料費比率	35.3%		32.9%	32.0%																														
C(自己評価の理由)	入院患者・外来患者の増による医業収益の増等から、前年度同様、健全経営を実施できている。																																	
A(今後の取り組み)	救急受入れの強化や、在院日数の短縮により、さらなる効率化を目指したい。																																	
市のコメント	入院・外来の利用状況に比例して、診療単価も増加し良好な収支状況である。引き続き、安定的な経営基盤の確立に努められたい。																																	

評価項目	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について																														
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																											
	令和5年度(総括)	R6.8.30	9	9	9																											
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	9	9																												
	令和4年度(総括)	R5.8.30	9	9	9																											
P(プラン) 令和5年度 事業計画	基本的な医療機能 ①診療機能の向上 ・令和5年4月から常勤医師を131名に増員(前年度比10名増員)																															
D(実施状況)	<職員数の状況 常勤換算> (単位:人) <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6.4</th> <th>R5.4</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①医師</td> <td>158.16</td> <td>147.59</td> <td>10.57</td> </tr> <tr> <td>②看護部</td> <td>402.22</td> <td>397.84</td> <td>4.38</td> </tr> <tr> <td>③医療技術</td> <td>161.95</td> <td>157.53</td> <td>4.42</td> </tr> </tbody> </table> <職員研修の状況> <table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>R5研修内容</td> <td colspan="3"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修 </td> </tr> </tbody> </table>					R6.4	R5.4	増減	①医師	158.16	147.59	10.57	②看護部	402.22	397.84	4.38	③医療技術	161.95	157.53	4.42		R5	R4	増減	回数	17	14	3	R5研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修 		
	R6.4	R5.4	増減																													
①医師	158.16	147.59	10.57																													
②看護部	402.22	397.84	4.38																													
③医療技術	161.95	157.53	4.42																													
	R5	R4	増減																													
回数	17	14	3																													
R5研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修 																															
C(自己評価の理由)	前年度に引き続き、医師等のスタッフ増員を図ることができた。																															
A(今後の取り組み)	現在、非常勤医の対応となっている診療科の常勤化を図っていく。令和4年度に常勤の救急専門医を1名確保ができたが、引き続き、救急医療体制の強化に努めていく。																															
市のコメント	医師の増員(常勤の救急専門医の確保)や継続的な研修による人材育成の体制強化などはできているが、常勤の脳神経外科医の確保ができていないので、引き続き、確保に向けて取り組んでいただきたい。																															

評価項目	4	救急医療体制の整備について																																							
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																																				
	令和5年度(総括)	R6.8.30	7	8	8																																				
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	8																																					
	令和4年度(総括)	R5.8.30	7	7	7																																				
P(プラン) 令和5年度 事業計画	救急医療(政策的医療) ・市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少をめざす。																																								
D(実施状況)	<p><救急医療実施日> ○内科系・外科系 H30.4より実施(終日) ○小児科 泉州医療圏内で輪番制で実施 実施日:毎週火曜日、第2、4、5土曜日</p> <p><救急医療(各年度4-3月)> (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急医療</td> <td>14,105</td> <td>13,852</td> <td>12,710</td> </tr> <tr> <td>うち救急搬送</td> <td>3,791</td> <td>3,598</td> <td>2,880</td> </tr> </tbody> </table> <p><市消防本部 救急搬送> 搬送率目標28.0% (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>搬送率</th> <th>R4</th> <th>搬送率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合医療センター</td> <td>2,388</td> <td>23.0%</td> <td>2,185</td> <td>22.5%</td> </tr> <tr> <td>市内民間病院</td> <td>3,818</td> <td>36.8%</td> <td>3,796</td> <td>39.0%</td> </tr> <tr> <td>市外医療機関</td> <td>4,182</td> <td>40.3%</td> <td>3,748</td> <td>38.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>10,388</td> <td></td> <td>9,729</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					R5	R4	R3	救急医療	14,105	13,852	12,710	うち救急搬送	3,791	3,598	2,880		R5	搬送率	R4	搬送率	総合医療センター	2,388	23.0%	2,185	22.5%	市内民間病院	3,818	36.8%	3,796	39.0%	市外医療機関	4,182	40.3%	3,748	38.5%	合計	10,388		9,729	
	R5	R4	R3																																						
救急医療	14,105	13,852	12,710																																						
うち救急搬送	3,791	3,598	2,880																																						
	R5	搬送率	R4	搬送率																																					
総合医療センター	2,388	23.0%	2,185	22.5%																																					
市内民間病院	3,818	36.8%	3,796	39.0%																																					
市外医療機関	4,182	40.3%	3,748	38.5%																																					
合計	10,388		9,729																																						
C(自己評価の理由)	昨年度より救急搬送受入件数は増加しているが、市外搬送件数も多い状況である。さらに医師確保を含め受入件数を増加できるよう努める。																																								
A(今後の取り組み)	令和4年度から常勤の救急専門医が確保したことから、更なる救急体制の充実を目指す。																																								
市のコメント	病床稼働率が高い反面、緊急入院の受入余地が少ない状況は理解できるが、市外搬送率が減少していない状況を改善するため、今後も救急受入件数を拡大し、市外搬送の減少に取り組まれない。なお、R4年度に救急専門医を確保したことは評価する。																																								

評価項目	5	地域医療機関との連携強化について												
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会									
	令和5年度(総括)	R6.8.30	9	9	9									
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	9	9										
	令和4年度(総括)	R5.8.30	9	9	9									
P(プラン) 令和5年度 事業計画	基本的な医療機能 ①地域医療機関との連携 ・紹介患者の受け入れ、逆紹介に努め地域医療の向上に貢献します。													
D(実施状況)	<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のため感染対策を行い、地域の医療機関との連携会を開催した。また、10月に「和泉の地域医療を考えるシンポジウム」を開催した。 地域の医療機関への情報提供を継続実施。 <p>○活動実績</p> <p>連携会件数 1回 シンポジウム実施回数 1回 地域医療機関向研修件数 11回 地域医療機関従事者研修参加人数 232人</p> <p><紹介率・逆紹介率></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>66.6%</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>86.1%</td> <td>91.7%</td> </tr> </tbody> </table>						R5	R4	紹介率	66.6%	72.9%	逆紹介率	86.1%	91.7%
	R5	R4												
紹介率	66.6%	72.9%												
逆紹介率	86.1%	91.7%												
C(自己評価の理由)	紹介率・逆紹介率は前年度よりも減少したが、件数は増加した。 【R4】紹介:17,511件、逆紹介:13,739件 【R5】紹介:18,309件、逆紹介:14,290件 ※紹介件数に再診患者含む													
A(今後の取り組み)	引き続き、地域医療機関への訪問や意見交換会の開催など、病病・病診連携を強化し、紹介率、逆紹介率向上を目指す。													
市のコメント	令和4年3月に承認を受けた、地域医療支援病院に相応しい病院として、引き続き、市内医療機関等とより一層の病病・病診連携の強化に努め、率向上に取り組まれない。													

評価項目	6	高度・専門医療について																						
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																			
	令和5年度(総括)	R6.8.30	8	8	9																			
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8																				
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	9																			
P(プラン) 令和5年度 事業計画	急性期病院としての機能強化と充実 ①手術件数 ②地域がん診療連携拠点病院																							
D(実施状況)	<p><高度・専門医療(各年度4-3月)> (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術数</td> <td>3,210</td> <td>2,877</td> <td>2,670</td> </tr> <tr> <td>(うちダヴィンチ)</td> <td>201</td> <td>175</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>放射線治療件数</td> <td>5,906</td> <td>6,979</td> <td>8,043</td> </tr> <tr> <td>化学療法実施件数</td> <td>7,758</td> <td>6,551</td> <td>5,527</td> </tr> </tbody> </table>					R5	R4	R3	手術数	3,210	2,877	2,670	(うちダヴィンチ)	201	175	123	放射線治療件数	5,906	6,979	8,043	化学療法実施件数	7,758	6,551	5,527
	R5	R4	R3																					
手術数	3,210	2,877	2,670																					
(うちダヴィンチ)	201	175	123																					
放射線治療件数	5,906	6,979	8,043																					
化学療法実施件数	7,758	6,551	5,527																					
C(自己評価の理由)	放射線治療件数は減少しているが、手術数、化学療法実施件数は昨年度より増加した。																							
A(今後の取り組み)	令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受けていることから、地域の医療機関と更なる連携を強化し、手術症例の紹介を受けるよう努める。																							
市のコメント	地域がん診療連携拠点病院として、着実ながん治療、がんゲノム研究に取り組み、高度専門医療にも対応している。今後も増築等の建設によりがんセンターも拡充するので、引き続き、市民が安心して高度な医療が受けられるよう、市の中核病院としての役割を果たすよう努められたい。																							

評価項目	7	待ち時間について			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和5年度(総括)	R6.8.30	7	7	8
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	7	
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8
P(プラン) 令和5年度 事業計画	患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。				
D(実施状況)	提案ポストで待ち時間に対する苦情が寄せられた。 <待ち時間苦情件数(各年度4-3月)> (単位:件)				
		R5	R4	増減	
	待ち時間苦情件数	6	11	▲ 5	
C(自己評価の理由)	限られた環境での診療であり、曜日によっては待ち時間が多く発生している。				
A(今後の取り組み)	スマートフォンアプリと連動した呼び出しシステム「HOSPA」のバージョンアップなどを行い、引き続き、提案ポストの内容や待ち時間分析を行い待ち時間を短縮できるよう努める。				
市のコメント	待ち時間に関する苦情が引き続き生じている。「HOSPA」も導入したことから、待ち時間を減少できるよう工夫し、満足度のさらなる向上につなげられたい。				

評価項目	8	職員の接遇について														
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会											
	令和5年度(総括)	R6.8.30	7	7	7											
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	7	7												
	令和4年度(総括)	R5.8.30	7	7	7											
P(プラン) 令和5年度 事業計画	患者サービス向上 ③職員の接遇について、研修や個別指導を行います。															
D(実施状況)	<p>患者アンケート調査による意見の集約を行っている。 提案ポストにしばしば接遇に関する苦情が寄せられており、院内委員会で検討を行った結果、指導、教育の徹底を継続し、接遇の向上を図っている。</p> <p><接遇研修の状況> (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R5研修内容</td> <td colspan="3"> ・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話使用について </td> </tr> </tbody> </table>					R5	R4	増減	回数	2	2	0	R5研修内容	・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話使用について		
	R5	R4	増減													
回数	2	2	0													
R5研修内容	・話し方で人は変わる(言葉遣い・敬語・丁寧語)認知症、せん妄のある患者に対する接遇 ・大部屋での携帯電話使用について															
C(自己評価の理由)	接遇に関する指摘は、院内委員会において、情報共有を行い、院内全体の取り組みとして改善を図っている。															
A(今後の取り組み)	引き続き、院内委員会による研修をはじめとし、指導、教育を継続していく。															
市のコメント	市担当部局にも未だ職員の接遇に関する苦情がよせられている。職員への個別指導や苦情からの改善策の吸い上げにより患者サービスを向上させ、苦情の減少に努められたい。															

評価項目	9	災害時医療の体制整備について											
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会								
	令和5年度(総括)	R6.8.30	8	8	8								
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8									
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8								
P(プラン) 令和5年度 事業計画	政策的医療 ③災害時医療 和泉市の地域防災計画に沿った体制により、職員研修、訓練を実施、災害発生時には傷病者を受け入れ、状況に応じて被災地への医師・看護師派遣を実施します。												
D(実施状況)	<table border="1"> <tr> <td>災害訓練日時</td> <td>令和5年11月14日(火)</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>73人</td> </tr> <tr> <td>参加部署</td> <td>医療センター全部署</td> </tr> <tr> <td>訓練内容</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練 </td> </tr> </table>					災害訓練日時	令和5年11月14日(火)	参加人数	73人	参加部署	医療センター全部署	訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練
災害訓練日時	令和5年11月14日(火)												
参加人数	73人												
参加部署	医療センター全部署												
訓練内容	<ul style="list-style-type: none"> 平日午前5時、南海トラフ地震(和泉市 震度7)想定 衛星電話、安否確認システムを用いて職員参集及び職員配置、トリアージ、診療の机上訓練 												
C(自己評価の理由)	関係機関との連携を図り、災害時医療の体制づくりを図っている。												
A(今後の取り組み)	今後は府や市(保健所)と連携した災害時医療訓練を実施し、課題検討に努める。												
市のコメント	政策的医療のひとつでもある災害時医療にも取り組んでいる。引き続き、府や市などの関係機関とも日頃から連携を図り、いざというとき迅速に対応できる体制構築に努められたい。												

評価項目	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について														
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会											
	令和5年度(総括)	R6.8.30	8	8	8											
	令和5年度(4-12月)	R6.3.26	8	8												
	令和4年度(総括)	R5.8.30	8	8	8											
P(プラン) 令和5年度 事業計画	患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。															
D(実施状況)	<p>入院患者を対象とした簡易なアンケートを実施。提案ポストは意見を2日に1度回収し、病院長が迅速に確認できるようにしている。</p> <p><提案ポスト・アンケート件数(各年度4-3月)> (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提案ポスト投函件数</td> <td>211</td> <td>236</td> <td>▲ 25</td> </tr> <tr> <td>入院アンケート回収件数</td> <td>2,289</td> <td>2,422</td> <td>▲ 133</td> </tr> </tbody> </table>					R5	R4	増減	提案ポスト投函件数	211	236	▲ 25	入院アンケート回収件数	2,289	2,422	▲ 133
	R5	R4	増減													
提案ポスト投函件数	211	236	▲ 25													
入院アンケート回収件数	2,289	2,422	▲ 133													
C(自己評価の理由)	提案ポスト及びアンケート内容については、確認、反映し、サービス向上につなげた。															
A(今後の取り組み)	提案ポスト等の内容を委員会で検討し、院内に周知しサービス向上につなげていく。															
市のコメント	提案ポスト等の要望について、適切な進行管理、迅速な改善対応を行っている。今後も提案ポスト等に限らず、多様な方法で意見集約を行い、サービスの向上につなげられたい。															

総合評価 令和5年度 (4月～3月)	自己評価	83	合計評価点(83点 / 100点)
	市の評価	84	合計評価点(84点 / 100点)
	委員会の評価	86	合計評価点(86点 / 100点)

(案)

令和6年8月30日

和泉市長 辻 宏康 様

和泉市立総合医療センター
経営評価委員会 委員長 高杉 豊令和5年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による
管理運営状況の評価について (答申)令和5年8月30日付けで和泉市長から諮問のあった標記について、下記のとおり答
申します。

記

1. 評価の考え方

指定管理者（医療法人徳洲会）から令和5年度の管理運営実績の報告を受け、本
委員会で点検、評価を行った。評価方法は、第3項に掲げる点数方式による評価と
ともに、数値では表示しがたい点については、第4項に本委員会からの意見を付し
た。また、平成29年3月（令和4年3月改訂）に策定された和泉市立病院新改革プ
ラン（以下「新改革プラン」）についても実施状況の評価及び総括を行った。

2. 令和5年度管理運営の概況

(1) 救急患者数及び救急搬送

新型コロナウイルス感染症の社会情勢により、救急患者数、救急搬送件数は前年
度より増加した。

	令和5年度	令和4年度	前年度比較 (増減率)	新改革プラン 令和5年度目標値
救急患者数	14,105 人	13,852 人	253 人 (+1.8%)	11,000 人

	令和5年度 (搬送率)	令和4年度 (搬送率)	前年度比較 (増減率)	新改革プラン 令和5年度目標値
救急搬送 件数	2,388 人 (23.0%)	2,185 人 (22.5%)	203 人 (+9.3%)	2,240 人 (28.0%)

(2) 患者数

入院患者数、外来患者数ともに、新改革プランの目標値を上回る結果となった。

	令和5年度	令和4年度	前年度比較 (増減率)	新改革プラン 令和5年度目標値
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	319 人	310 人	9 人 (+2.9%)	292 人
1日当たり外来患者数	1,074 人	1,058 人	28 人 (+2.7%)	1,008 人

(3) 収支状況

医業収益は入院・外来診療共に増益であるが、材料費等の費用が増加しており前年度と比べると減益となった。

	令和5年度	令和4年度	前年度比較	新改革プラン 令和5年度目標値
経常損益	1,653,650 千円	2,450,329 千円	▲796,679 千円	
経常収支比率	111.5%	117.5%	▲6.0%	109.0%

3. 評価1 (評点結果)

評価対象	NO	評価項目	評価
運営 (基本的事項)	1	施設利用者数の状況について	
	2	収支計画の達成状況について	
医療サービス	3	必要なスタッフ（医師・看護師等）の確保と人材育成について	
	4	救急医療体制の整備について	
	5	地域医療機関との連携強化について	
	6	高度・専門医療について	
施設利用サービス	7	待ち時間について	
	8	職員の接遇について	
危機管理	9	災害時医療の体制整備について	
利用者の評価	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について	
合計評価点 (85点 / 100点)			

評点の考え方	点数
優れている	9～10
出来ている	7～8
概ね出来ている	4～6
やや劣っている	1～3
劣っている	0

4. 評価2（本委員会からの付帯意見）

(1) 運営状況

- 地域医療支援病院の承認を受け、紹介率、逆紹介率はコロナ感染症5類移行による計算方法の変更により減少したが、医療機関との連携を図りともに努力の成果も現れ紹介患者数は上昇している。今後も継続されたい。
- 診察室不足などの課題解決に向け、指定管理者からの収益の還元による増築棟の建設事業については、建設期間中の利用者等の安全対策に十分配慮されたい。

(2) 医療サービス

①必要なスタッフの確保と人材育成

患者数増に対し、スタッフの充足が徐々に進んでいるが、継続して人材確保に取り組んでいただきたい。

②救急医療

常勤医師を確保され受入れ件数が増加している。病床稼働率も100%を超える数値であり、病床の効率化による救急患者の受け入れを増やすことも考慮されたい。

③危機管理・医療安全

アクシデントの件数については、看護師不足による多忙が原因ではないか。再度、看護師確保も含め管理体制を検討願いたい。

④地域医療機関との連携

地域医療支援病院の承認も受けていることから、引き続き、近隣の医療機関と情報共有や連携を図り体制の強化を図られたい。

⑤医療環境の充実

運営面のさらなる飛躍を期待し、高度ながん治療や専門的医療に必要な医療機器の拡充について検討されたい。

(3) 施設利用者へのサービス

待ち時間に関して、令和5年1月より通院支援システムアプリ「HOSPA」の導入によるサービス向上は認められるが、引き続き、短縮できる方策を検討されたい。

(4) 利用者の評価

引き続き、患者アンケートを実施し、医療の充実及び医療サービスの向上に繋がられたい。

5. 総括

令和5年度は、前年度と比べ入院・外来患者数も増加傾向となり、運営状況は堅調である。

救急医療については、救急専門医を配置（令和4年4月）するなど、公立病院としての使命を果たしていることを高く評価したい。

また、令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受けているなかで、地域の中核病院に求められる機能整備が着実に進められていることが認められる。

これらの結果、令和5年度の管理運営状況においては、収支面も含め前年度に引き続き良好であり、要因として、医師の増員や医療機器の更新の他にも、効率的な病床管理を実行するなど、運営面での手腕によるものも大きいと考えられる。

救急搬送受入状況は目標達成には至らなかったものの受入れ件数については増加しており、入院・外来患者数や経営指標なども目標値を上回っていることから、評価できるものである。

引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、地域の拠点病院としての役割を果たすとともに、今後も市と協力し、医療水準の向上に取り組み、安全安心で市民に信頼される病院になることを期待する。

和泉市立病院 新改革プラン（平成28年度～令和5年度）総括

資料5

新改革プランは、平成28年度から平成32年度までとして計画されたが、指標の見直しを行いながら公立病院としての役割を担うべく令和5年度までの計画として運営を行ってきたものである。
 当院は、平成26年4月から指定管理者医療法人徳洲会による運営を開始し、平成29年度には経常収支比率が100%となる。また、平成30年4月に新病院として和泉市立総合医療センターの開院により、患者数が増加し、経常収支比率が110%を超え安定した運営が行われている状況である。
 令和2年度～4年度はコロナ禍の感染病床確保の必要性等から病床利用率等において影響を受けたものである。

評価点	
5	目標値を上回った。達成度100%以上
4	目標値を達成できた。達成度90%以上
3	目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上
2	目標値を下回った。達成度50%以上
1	目標値を大きく下回った。達成度50%未満

○ 入院患者数等

	自己評価					委員会評価		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1日あたり患者数 (人)	217	241	270	292	292	292	292	292
実績	218	230	299	309	295	309	310	319
診療単価 (円)	49,000	48,934	51,500	59,961	61,925	72,200	73,000	73,000
実績	48,280	48,899	56,946	61,151	71,773	71,879	77,726	78,879
病床利用率 (%)	70.7	78.5	87.9	95	95	95	95	95
実績	66.3	69.7	90.1	92.9	88.9	92.8	93	95.1
(参考) 稼働率 (%)	71.0	74.9	97.3	100.7	96.2	100.6	101.1	103.8

病床利用率＝入院患者数÷許可病床数 稼働率＝(入院患者数+退院患者数)÷許可病床数

自己評価	
旧病院時には稼働病床数が293床でありました。新病院開設後は許可病床である307床で運営を行い、平成30年度以降、病床利用率の目標値を超え、さらに病床を効率的に活用することで稼働率が100%を超える結果となっております。	

○ 外来患者数等

	自己評価					委員会評価		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1日あたり患者数 (人)	547	547	549	890	925	968	970	1,008
実績	534	559	850	970	936	1,030	1,058	1,074
診療単価 (円)	14,000	14,585	14,600	16,500	16,800	21,600	23,000	23,000
実績	13,938	13,657	16,447	19,047	21,223	22,286	24,172	24,378
(参考) 紹介率			51.8	54.7	64.4	68.8	72.9	66.6
(参考) 逆紹介率			45.6	68.5	84.9	88.6	91.7	86.1

自己評価	
紹介・逆紹介による地域との連携を図り地域医療支援病院（令和4年3月）の承認を受けているなど専門診療を拡充し、外来患者数を増やしています。診療科は、平成28年16科、平成30年32科、33科、令和5年には35科と増やしています。 ※（参考）（逆）紹介率において、コロナ感染症が令和5年5月に5類となり初診患者発熱外来患者数の取扱変更 率＝（逆）紹介件数÷（初診患者数-初診患者発熱外来患者数）	

○ 救急患者数等

	自己評価					3	委員会評価					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度			
救急患者受入数 (人)												
目標	7,600	8,400	10,050	16,500	17,000	11,000	11,000	11,000	11,000			
実績	10,080	10,370	14,820	14,874	10,208	12,710	13,852	14,105	14,105			
市内救急搬送受 入率(A)÷(B)× 100 (%)	14.7	21.8	43.5	28.9	30	28	28	28	28			
実績	16.5	15.7	26.3	25.7	23.8	21.4	22.5	23.0	23.0			
市内救急搬送受 入数(A) (A)	1,222	1,830	3,700	2,600	2,760	2,100	2,240	2,240	2,240			
実績	1,363	1,329	2,351	2,303	1,780	1,779	2,185	2,388	2,388			
和泉市消防本部 搬送者数(B) (B)	8,300	8,400	8,500	9,000	9,200	7,500	8,000	8,000	8,000			
実績	8,278	8,451	8,953	8,964	7,487	8,299	9,729	10,388	10,388			
(参考) 救急搬送 者受入数	1,916	1,981	3,526	3,557	2,805	2,880	3,598	3,791	3,791			

自己評価

高齢化社会となり和泉市消防本部救急搬送者数は
新型コロナウイルス感染症(令和2年度、3年度)の影響は
あるものの、概ね年々増加している。令和4年度に
は救急専門医の常勤医師1名を雇用し受入件数を
増加させている。救急搬送者受入数は令和5年度で
は約3,800件の受入を行っているが、その内、和泉
消防に対する受入率は目標に達していない。不応
需理由(R4、12~R5、11)として、「満床」の理由
によるものが約31%を占め在院日数の短縮等、一
層の効率的なベッド活用が求められる。

○ 経常収支比率

	自己評価					5	委員会評価					
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度		令和3年度	令和4年度	令和5年度			
経常収支比率 (%)	101.4	101.6	103	105.7	105	108.8	109	109	109			
実績	99.9	100.7	112.8	107.3	118.4	119.4	117.5	111.5	111.5			
(参考) 常勤医師数 (4月1日)	48	54	82	97	111	120	121	130	130			

自己評価

医師の確保及び市民の医療ニーズにあった専門医
療の拡充が出来、患者数の増加により目標を上回
る経常収支となっている。

経営評価委員会 総括

計画期間中の新病院開設を境に大きく目標値を上回る実績を残し、収支面においても評価できるものである。ただし、病床利用率の向上に伴い、市内救急搬送受入
数及び受入率は低下傾向である。効率的な病床確保により、病床利用率と市内救急搬送受入の病床の調整を図り公立病院としての役割をなお一層果たしていただきた
い。

和泉健第 1318 号

令和 6 年 8 月 30 日

和泉市立総合医療センター経営評価委員会

委員長 高杉 豊 様

和泉市長 辻 宏 康

令和 6 年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況
及び和泉市立総合医療センター経営強化プラン実施状況の評価について（諮問）

和泉市立総合医療センターの適正な管理運営を確保するとともに、サービス水準の向上につなげるため、指定管理者による管理運営状況及び和泉市立総合医療センター経営強化プラン実施状況を貴委員会において評価いただきますよう、和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則第 2 条に基づき諮問します。

プラン掲載指標

ページ	項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
8	医療機能	高度急性期 283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：258床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む) 回復期 24床 緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：258床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む) 回復期 24床 緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む) 回復期 24床 緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む) 回復期 24床 緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む) 回復期 24床 緩和ケア病棟入院料1
9	外来機能向上	増築棟建築の設計	増築棟建築	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営	がんセンター、難病センター、呼吸器センター運営
9	9 地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
9	9 地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8
10	救急搬送者数(人)	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
10	手術件数(手術室内)	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000
10	患者満足度(%)	82.1	82.8	83.6	84.3	85
10	在宅復帰率(%)	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
10	クリニカルパス利用率(%)	52.8	53.4	53.9	54.5	55
10	紹介率(%)	73.3	73.7	74.2	74.6	75
10	逆紹介率(%)	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
10	臨床研修医の受入件数(人)	8	9	9	9	9
10	健康・医療相談件数(件)	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
11	医師	131	137	140	140	140
11	看護師	338	358	365	365	365
11	技師	126	130	135	140	145
11	薬剤師	27	30	32	35	38
12	時間外労働	-	A水準(960時間未満)	A水準(960時間未満)	A水準(960時間未満)	A水準(960時間未満)
13	1日あたり入院患者数(人)	292	292	292	295	295
13	病床利用率(%)	95	95	95	96	96
13	入院診療単価(円)	73,000	77,880	77,880	77,880	77,880
13	1日あたり外来患者数(人)	1,008	1,008	1,008	1,050	1,100
13	外来診療単価(円)	23,000	23,150	23,150	23,150	23,150
13	和泉市消防本部からの救急患者受入率	28.0	28.0	28.0	30.0	30.0

プラン掲載指標

ページ	項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
13	医療関連感染防止マニュアル	-	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂
15	経常収支比率	112	109	109	108	108
15	修正医業収支比率	110	108	108	107	107
18	医業費収支比率(%) (医業収入合計/医業費用合計)	110	110	109	108	109
18	給与費率 (人件費合計/医業収入合計)	42	42	42	42	42
18	材料比率 (医業原価合計/医業収入合計)	35	35	35	35	35

評価点

5点	目標値を上回った。達成度100%以上
4点	目標値を達成できた。達成度90%以上
3点	目標値をほぼ達成できた。達成度70%以上
2点	目標値を下回った。達成度50%以上
1点	目標値を大きく下回った。達成度50%未満

評価においては、シートにおける各項目の達成度の平均、達成個数、委員が考える重点項目の達成度などによる各委員の考えにより評価をお願いしたいと考えています。

経営強化プラン進行管理（PDCA）チェックシート兼経営評価シート（案）

1 和泉市立総合医療センターの役割・機能について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度（4～12月）				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医療機能	高度急性期 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：258床 （専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む） 回復期 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：258床 （専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む） 回復期 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●ハ竹アユニット入院医療管理料：最大24床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：234床 （専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む） 回復期 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●ハ竹アユニット入院医療管理料：最大24床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：234床 （専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む） 回復期 24床 ●緩和ケア病棟入院料1	高度急性期 283床<下記内訳> ●特定集中治療室管理料1：8床 ●ハ竹アユニット入院医療管理料：最大24床 ●小児入院医療管理料4：17床 ●急性期一般入院料1：234床 （専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む） 回復期 24床 ●緩和ケア病棟入院料1
自己評価 ○×					
外来機能向上	増築棟建築の設計	増築棟建築	がんセンター、 難病センター、 呼吸器センター運営	がんセンター、 難病センター、 呼吸器センター運営	がんセンター、 難病センター、 呼吸器センター運営
自己評価 ○×					
P プラン	医師数や外来患者数が大幅増加したことで、診療スペース、待合スペースの外来機能が低下していることから次の対応を行う ・増築棟を新たに建設（令和7年度完成予定）及び現建築物の改修 ・がんセンターにおいて、外来化学療法室、がん相談支援センターを拡張、新たにがんゲノム外来を設置 ・市民の医療ニーズに沿った難病センター、呼吸器センターを新たに設置 ・救急患者の受け入れ強化・拡充を図るため高度急性期病床283床のうち最大24床を高度治療室（HCU）へ転換を図る				
D 実施状況	増改築状況 開設許可申請状況				
C 自己評価の理由	工事の進捗状況・診療センターの状況				
A 今後の取組	診療センター設置の周知				

2

施設利用者数等の状況について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価																																				
	令和6年度（総括）																																							
	令和6年度(4-12月)																																							
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度																																			
1日あたり 入院患者数 (人)	292	292	292	295	295																																			
入院診療単価 (円)	73,000	77,880	77,880	77,880	77,880																																			
病床利用率 (%)	95	95	95	96	96																																			
1日あたり 外来患者数 (人)	1,008	1,008	1,008	1,050	1,100																																			
外来診療単価 (円)	23,000	23,150	23,150	23,150	23,150																																			
P プラン	上記指標を目標に定める																																							
D 実施状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6（総括）</th> <th>R6（計画）</th> <th>指標達成率（%）</th> <th>R5（総括）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1日あたり 入院患者数（人）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院診療単価（円）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1日あたり 外来患者数（人）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来診療単価（円）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>病床利用率（%）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>（参考） 病床稼働率（%）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）	1日あたり 入院患者数（人）					入院診療単価（円）					1日あたり 外来患者数（人）					外来診療単価（円）					病床利用率（%）					（参考） 病床稼働率（%）				
	R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）																																				
1日あたり 入院患者数（人）																																								
入院診療単価（円）																																								
1日あたり 外来患者数（人）																																								
外来診療単価（円）																																								
病床利用率（%）																																								
（参考） 病床稼働率（%）																																								
C 自己評価の 理由	指標への達成度で評価																																							
A 今後の取組																																								

3

地域医療機関との連携強化について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
紹介率 (%)	73.3	73.7	74.2	74.6	75
逆紹介率 (%)	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
在宅復帰率 (%)	98	98	98	98	98
地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率 (%)	R5（総括）
	紹介率 (%)				
	逆紹介率 (%)				
	在宅復帰率 (%)				
	地域医療支援病院運営委員会				
	地域の医療介護研修会				
	連携会件数			回	
	シンポジウム実施回数			回	
	地域医療機関向研修件数			回	
	地域医療機関従事者研修参加人数			人	
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価				
A 今後の取組					

4

必要なスタッフの確保と時間外勤務について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医師	131	137	140	140	140
看護師	338	358	365	365	365
技師	126	130	135	140	145
薬剤師	27	30	32	35	38
臨床研修医の受入人数	8	9	9	9	9
時間外労働		A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）	A水準（960時間未満）

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）
	医師				
	看護師				
	技師				
	薬剤師				
	臨床研修医の受入人数				
C 自己評価の理由		R6	R5	資料O	
	時間外労働 960時間以上人数割合	%	%	時間外人数	
				時間数	人数
				1,000時間以上	割合
				960時間以上	1,000時間未満
				900時間以上	960時間未満
				800時間以上	900時間未満
				700時間以上	800時間未満
				600時間以上	700時間未満
				480時間以上	600時間未満
A 今後の取組				480時間未満	
				合計	

5

医療の標準化・質の向上

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
クリニカルパス使用率（%）	52.8	53.4	53.9	54.5	55

P プラン	上記指標を目標に定める 医療の標準化や情報の共有化を通じたチーム医療の推進				
D 実施状況		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）
	クリニカルパス 使用率（%）				
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価				
A 今後の取組					

6

救急医療体制の整備について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
救急搬送者数 (人)	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
和泉市消防本部からの救急患者受入率	28	28	28	30	30

P プラン	上記指標を目標に定める				
D 実施状況		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（％）	R5（総括）
	救急搬送者数（人）				
	（参考） 救急患者数				
	＜市消防本部 救急搬送者数＞				
		R6	搬送率（％）	R5	搬送率（％）
	総合医療センター				
	市内民間病院				
	市外医療機関				
	合計				
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価				
A 今後の取組	受入れ率向上への取組				

7

患者サービスの向上

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度（4-12月）				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
患者満足度（%）	82.1	82.8	83.6	84.3	85
健康・医療相談件数（件）	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100

P プラン	上記指標を目標に定める 在院時間における患者満足度を高める。				
D 実施状況	患者アンケート調査による意見の集約を行っている。				
		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）
	健康・医療相談件数（件）				
	患者満足度（%）				
	＜患者等満足度調査＞				
		R6（総括）	R5（総括）		
	入院患者満足度				
	外来患者満足度				
	満足度調査結果に基づき、院内委員会で検討で検討の上、以下のような取組を行った。				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 				
＜外来待ち時間推移（各年度4-3月）＞ （単位：分）					
	R6（総括）	R5（総括）			
平均待ち時間					
予約あり					
予約なし					
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価				
A 今後の取組					

8

安定した病院経営

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
経常収支比率	112	109	109	108	108
修正医業収支比率	110	108	108	107	107
医業費収支比率（％） （医業収入合計/医業費用合計）	110	110	109	108	109
給与費率 （人件費合計/医業収入合計）	42	42	42	42	42
材料比率 （医業原価合計/医業収入合計）	35	35	35	35	35

P プラン	上記指標を目標に定める 持続可能な医療サービスの提供に向けた安定した病院経営																																		
D 実施状況	収支状況による収支率等 （単位：％） <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R6（総括）</th> <th>R6（計画）</th> <th>指標達成率（％）</th> <th>R5（総括）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収支比率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>修正医業収支比率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（％）	R5（総括）	経常収支比率					修正医業収支比率					医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）					給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）					材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）				
	R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（％）	R5（総括）																															
経常収支比率																																			
修正医業収支比率																																			
医業費収支比率 （医業収入合計/ 医業費用合計）																																			
給与費率 （人件費合計/医業 収入合計）																																			
材料比率 （医業原価合計/医 業収入合計）																																			
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価																																		
A 今後の取組																																			

9

高度・専門医療について

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
手術件数 (手術室内)	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000

P プラン	上記指標を目標に定める 急性期病院としての機能強化と充実 ①手術件数 ②地域がん診療連携拠点病院				
D 実施状況	実績				
		R6（総括）	R6（計画）	指標達成率（%）	R5（総括）
	手術件数				
	(うちダヴィンチ)				
	放射線治療件数				
	化学療法実施件数				
C 自己評価の理由	指標への達成度で評価				
A 今後の取組					

10 災害時医療・感染症対策

評価	評価	報告日	自己評価	評価委員評価	
	令和6年度（総括）				
	令和6年度(4-12月)				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医療関連感染防止マニュアル	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂	国基準に合わせ改訂
自己評価 ○×-					

P プラン	上記指標を目標に定める 新興感染症に備えた第一種協定指定医療機関の指定を受け感染症対策、また災害対策に平時から取り組む								
D 実施状況	<p>マニュアル改訂 令和6年 月改訂</p> <table border="1"> <tr> <td>災害訓練日時</td> <td>令和6年 月 日 ()</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>参加部署</td> <td>医療センター全部署</td> </tr> <tr> <td>訓練内容</td> <td></td> </tr> </table>	災害訓練日時	令和6年 月 日 ()	参加人数	人	参加部署	医療センター全部署	訓練内容	
災害訓練日時	令和6年 月 日 ()								
参加人数	人								
参加部署	医療センター全部署								
訓練内容									
C 自己評価の理由	国基準の変更を確認し、マニュアル改訂を行った。また、関係機関との連携を図り、災害時医療の体制づくりを図っている。								
A 今後の取組									

○和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則

平成26年6月25日

規則第35号

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市病院事業の設置等に関する条例（昭和47年和泉市条例第3号）第3条の2の規定に基づき、和泉市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じて、和泉市立病院の指定管理者による管理運営状況の評価及び和泉市立病院新改革プランに基づく進行管理を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

2 委員会の委員は、病院経営、経理、地域医療その他医療に関し学識経験を有する者及び市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(委員会の召集の特例)

第7条 委員長は、災害その他の理由により委員会を招集することができない場合にお

いては、前条の規定にかかわらず、書面その他の方法により議事を行うことができる。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、病院事業担当部署において処理する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成26年6月25日から施行する。

附 則 (平成29年規則第20号)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年規則第9号)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年規則第38号)

この規則は、公布の日から施行する。

和泉市立病院 新改革プラン

(平成 28～令和 5 年度)



※新病院イメージ図 (平成 30 年 4 月開院予定)

平成 29 年 3 月
(令和 5 年 3 月改訂)
和 泉 市

【目 次】

はじめに	1
I. 公立病院改革プランの経過	
1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定	2
2. 当院のこれまでの取り組みと成果	2
(1) 指定管理者制度への移行	
(2) 泉州二次医療圏域における当院の現状	
(3) 経営状況等の改善	
(4) 新病院の建設	
II. 新公立病院改革プランにおける取り組み	
1. 新改革プランの4つの視点	6
(1) 医療水準向上の取り組みによる経営健全化	
(2) 再編・ネットワーク化	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	
2. 数値目標の設定	11
3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表	11
○別紙1 収支計画書（指定管理者）	12
○別紙2 収支計画書（病院事業会計）	13

はじめに

公立病院は、医師不足等のために、その多くが経営不振に陥っていたことから、国は、平成 19 年に「公立病院改革ガイドライン」を策定し、病院を設置する自治体に対して、「公立病院改革プラン」を策定し、3 つの視点（経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し）からの経営改革の実施を要請した。

これを受けた各自治体の取組によって、一定の成果は上がったものの、依然として医師不足等の厳しい環境が続く中、多額の一般会計繰入金を受けても損益黒字の病院が半数に満たないなど、持続可能な経営を確保している病院は限定的であったことから、国は、平成 27 年に「新公立病院改革ガイドライン」を策定し、再度すべての病院設置自治体に、「新公立病院改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）を策定するよう要請した。

この新改革プランでは、前回の 3 つの視点に加え、新たに「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」が追加されている。これは、いわゆる 2025 年問題（団塊の世代が 75 歳以上になり、医療費・介護費の増大が懸念されている）を踏まえ、今後の人口減少や高齢化の進展による変化に対応できるよう、地域の実情に応じた当該病院の将来の病床機能のあり方や、地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割を示すことを求めるものである。

和泉市立病院（以下「当院」という。）は、他の公立病院と同様、医師不足等から、平成 18 年に救急告示を取り下げた以降、急激に経営が悪化し、平成 20 年度には「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」を策定したが、慢性的な赤字体質、救急医療の再開、施設の老朽化といった重い課題を解決できる見通しが立たず、赤字補てん等のために一般会計から多額の補助金を投入せざるを得なくなった。

市全体の財政運営への多大な影響を危惧した本市は、「和泉市立病院あり方検討委員会」の答申を踏まえ、病院再生に向けた改革を断行することとし、平成 26 年 4 月に市立病院の公設民営化（指定管理者制度への移行）に踏み切った。その道程には多くの課題があったが、市・市議会一丸となって克服したことにより、今日の救急医療の再開や一般会計からの赤字補てん補助金の解消、さらには、かつて実現困難とされた新病院建設事業にも着手できた。

当院は、公設民営による経営に移行したことにより、前回の改革プランの目標は達成したが、今回策定した新改革プランの 4 つの視点の達成に向け、新たな気持ちで最善を尽くすことはもとより、公設民営化の主眼であった 365 日 24 時間救急体制の早期実現をはじめ、さらに安全で質の高い医療を目指しつつ、今以上に市民・患者に信頼され、愛される病院となるよう、歩みを止めずに病院改革に取り組んでいくものである。

I. 公立病院改革プランの経過

1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定

当院は、昭和 38 年に病床数 60 床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和 47 年に、設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

しかし近年、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成 19 年度には経常損失約 16 億円、不良債務（資金不足）約 20 億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成 21 年 3 月に策定された「和泉市立病院 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成 20 年度から平成 27 年までを計画期間とし、平成 25 年度における経常収支の黒字化、平成 27 年度における不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

2. 当院のこれまでの取り組みと成果

（1）指定管理者制度への移行

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づく経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える 3 つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、市は、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえて、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成 26 年 4 月から医療法人徳洲会による運営を開始した。

（2）泉州二次医療圏における当院の現状

当院は現在、急性期病院として、泉州二次医療圏の地域医療の向上に貢献している。当院の主な特長は、以下のとおりである。

① がん診療

大阪府がん診療拠点病院として主に泉州地域の患者を受け入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施している。また、緩和ケア病棟（22 床）は常時満床に近い患者数を受け入れている。

② 救急医療

平成 27 年 6 月から救急患者の受け入れを再開し、現在は週 5 日体制となっている。早期の全面再開を目指している。

○ 救急患者の受入時間

(平成 29 年 3 月 1 日現在)

		内科、外科系	小児科（輪番制）
救急 実施 日	日	9:00 ~ 17:00	
	月	9:00 ~ 翌 8:00	
	火		17:15 ~ 翌 6:00 (祝日の場合 23:00~翌 6:00)
	水	9:00 ~ 翌 8:00	
	木	9:00 ~ 翌 8:00	
	金		
	土	9:00 ~ 17:00	23:00 ~ 翌 6:00 (第 2, 4, 5 週)

③ その他の診療科

各診療科においても、重要な役割を担っている。

- ・整形外科… 人工関節手術で多数の紹介患者を受入れ
- ・肝臓内科… 専門医を確保しウイルス性肝炎患者を受入れ
- ・呼吸器内科… 専門医を確保し紹介患者を受入れ
- ・小児科… 泉州地域では希少な発達障害の患者を受入れ

(3) 経営状況等の改善

① 患者数

平成 26 年度は、指定管理者制度への移行の初年度であり、医療スタッフの退職等による一時的な落ち込みがあったが、救急医療の再開等により、患者数は順調に回復してきている。

○ 1 日あたり患者数等の推移

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4 月~1 月)
1 日あたり入院患者数(人)	191.2	165.7	201.1	215.0
病床利用率※ (%)	62.3	54.0	65.5	70.0
1 日あたり外来患者数(人)	545.8	483.3	507.6	543.3

※許可病床 307 床にて算出

② 救急患者数

②-1 救急患者の受入れ

平成 27 年 6 月から救急患者の受入れを再開し、患者数は大きく増加している。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

		公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4月～1月)
救急患者数		3,835	4,756	7,326	8,471
うち 救急 搬送者	小児科	394	432	402	341
	内科系・外科系	409	401	834	1,246
	合 計	803	833	1,236	1,587

②-2 市内救急搬送患者の受入れ

救急告示取下げ以降、市内の救急搬送は、市内の民間病院や市外の病院に依存していたが、救急患者受入れの再開に伴い、受入件数は大きく増加している。

○ 救急搬送件数の推移

※()内は構成比 (単位：件、%)

	公設公営	公設民営（指定管理者）		
	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
和泉市立病院	455 (5.8)	441 (5.5)	674 (8.5)	1,222 (14.9)
市内他病院	4,338 (56.0)	4,437 (54.9)	3,946 (49.7)	3,642 (44.3)
市外病院	2,960 (38.2)	3,204 (39.6)	3,317 (41.8)	3,359 (40.8)
合 計	7,753 (100.0)	8,082 (100.0)	7,937 (100.0)	8,223 (100.0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

③ 経常収支の状況

平成 25 年度は、患者数の減少等により大幅な経常赤字となったが、公設民営化後、指定管理者が、民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、経常収支の改善が進んでいる。

○ 経常収支の推移

(単位：百万円)

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (見込み)
経常収入	5,861	5,009	5,844	6,153
経常支出	7,975	5,344	6,051	6,069
経常収支	▲2,114	▲335	▲207	24

Ⅱ. 新公立病院改革プランにおける取組み

1. 新改革プランの4つの視点

「はじめに」に記載したとおり、新改革プランでは、前回の取組み項目（①経営の効率化、②再編・ネットワーク化、③経営形態の見直し）に加え、新たに「④地域医療構想を踏まえた役割の明確化」として、人口減少や少子高齢化の進展による医療需要の変化等に対応できるよう、地域の実情に応じた将来の医療機能の病床数を示すこととされている。

地域医療構想は、「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（医療介護総合確保推進法）に基づき、国が都道府県に対して策定を要請したもので、令和7年時点の医療需要・必要病床数を推計し、目指すべき医療提供体制を明確にした構想を、医療圏ごとに策定するものである。

当院では、新病院開設許可を得るにあたり、当時策定途中であった「地域医療構想」との整合が求められたことから、地域医療構想に沿った病床機能の転換を行うため、大阪府と協議を重ね、新病院建設の開設許可を得たところである。

また、医療と介護の連携推進に関しては、医療・介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の取組みに積極的に参画していくものである。

これら4つの各取組み項目について、設置者である市と、管理運営を行う指定管理者の双方が互いに協力しながら、次のような取組みを進めるものとする。

（1）医療水準向上の取組みによる経営健全化

当院では、平成26年度に経営形態を変更しているが、新ガイドラインにおいては、既に経営形態の見直しに取り組んだ病院についても、現在の取組み状況や成果を検証するとともに、更なる見直しの必要性について検討することが求められている。

したがって、当院では下記の取組みにより医療水準を高め、更なる患者獲得に努めることで、経営黒字化を達成し、持続可能な運営の確保を目指していく。

※ 数値目標については、「2. 数値目標の設定」に後掲。

※ 計画対象期間中の各年度の収支計画等は、別紙1及び別紙2のとおり。

○ 医療水準向上の主な取組み（予定）

取組み項目	平成 30 年度（新病院開院時）
① 救急・急性期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・救急科を設置し、救急患者の全日受入れ体制を構築 ・中核となる脳神経外科、循環器・消化器・呼吸器内科等の充実
② がん医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高精度放射線治療システム（トモセラピー）の整備 ・外来化学療法室、緩和ケア病棟の充実 ・がん医療に関わる診療科でのがん診療機能の整備
③ 小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・小児専用病棟の充実
④ その他の医療機能	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌代謝糖尿病内科の新設 ・神経内科の設置及び救急医療での脳神経外科との連携 ・人工透析患者対応の検討

（2）再編・ネットワーク化

平成 20 年 5 月に、当院が婦人科、泉大津市立病院が産科を担当する産婦人科の機能分担協定を締結しているほかは、現時点では、他の病院との機能分担等は想定していない。

今後は、本医療圏の医療需要に鑑み、市域の療養型病院や介護施設等との連携に努めつつ、引き続き、当院の医療機能を補完すべく、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）との連携強化を図っていく。

（3）経営形態の見直し

当院は、平成 26 年 4 月から指定管理者制度へ移行しており、現在、指定管理者のノウハウを活かしながら、健全経営に向けた取組みを行っている。その結果、救急医療の再開、市からの赤字補てん補助金の解消、新病院建設事業の着手などが実現している。

引き続き、外部有識者による運営状況の点検、評価を継続し、更なる見直しが必要な場合は適宜対応していく。

（4）地域医療構想を踏まえた役割の明確化

当院の課題である救急医療の拡充を目指しながら、泉州二次医療圏に不足している病床機能（高度急性期、回復期）の整備を行うとともに、市において進められている地域包括ケアシステム構築の取組みに参画していくものとする。

① 大阪府地域医療構想

大阪府地域医療構想は、今後さらに医療・介護の需要が増大する見込みの中、医療や介護に関する他の計画との整合性を図りながら、地域において効果的かつ効率的な医療提供体制を構築することを目的として、平成 28 年 3 月に策定された。

その中で、医療面においては、地域の需要に応じた適切な医療を提供するために、病床機能の分化と連携の推進に取り組むことが明記された。

また、医療圏ごとに、高度急性期、急性期、回復期（回復リハ、緩和ケア、地域包括ケア）、慢性期の各病床の令和 7 年の必要見込数が示されており、これを基に、各地域において必要な検討、協議を行い、構想の実現に取り組むこととされている。

② 泉州二次医療圏の状況

当院は、泉州二次医療圏に属する。本市の平成 22 年の高齢化率は、泉州地域において最も低いですが、平成 22 年から令和 7 年の高齢化率の上昇率は、阪南市、熊取町に次いで大きいと推計されており、今後一層の医療需要の増加が見込まれる。

現在、本地域は 76 病院（14,785 床）、675 の診療所、450 の歯科診療所を有しているが、他の圏域との比較では、公立病院が多く（76 病院中 7 病院）、精神病床が多いという特徴がある。

また、府の推計では、平成 26 年度の病床機能報告制度の病床数と、令和 7 年の必要病床数（推計）を比較すると、高度急性期機能は 381 床不足、急性期機能は 829 床過剰、回復期機能は 1,688 床不足という結果となっている。

○ 泉州各市町の病床数等の状況

	人口 (人)	高齢化率 (%)		病院 数	病 床 数 (床)					一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所	
		平成 22 年度	令和 7 年度 推計		一 般	療 養	精 神	結 核	感 染 症			
和泉市	185,650	19.4	27.2	14	3,037	1,279	793	965	0	0	116	92
泉大津市	76,137	19.9	26.4	4	429	321	108	0	0	0	68	48
高石市	57,746	22.6	29.3	5	1,093	173	184	736	0	0	52	35
岸和田市	196,586	22.1	27.9	17	3,268	1,259	1,029	980	0	0	147	106
貝塚市	89,735	21.6	27.0	9	2,460	354	217	1,889	0	0	60	35
泉佐野市	99,447	21.6	26.6	12	1,561	705	504	342	0	10	88	49
泉南市	62,974	22.6	29.0	7	1,173	248	343	582	0	0	36	22
阪南市	55,318	22.5	32.9	3	386	250	136	0	0	0	40	28
忠岡町	17,603	23.4	27.9	1	47	0	47	0	0	0	14	10
熊取町	44,758	20.3	29.7	2	990	148	202	640	0	0	36	16
田尻町	8,522	21.5	23.3	1	40	40	0	0	0	0	9	5
岬町	16,268	30.6	39.0	1	301	0	301	0	0	0	9	4
合計	910,744	21.4	28.1	76	14,785	4,777	3,864	6,134	0	10	675	450

出典 人口：大阪府統計課（平成26年10月1日現在）

H37 高齢化率：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

病院・病床数：平成27年3月31日現在 大阪府健康医療部資料

○ 平成26年度の病床数と令和7年必要病床数の比較

(単位：床)

年度(年)	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答	合計
病床機能報告数(26年度) a	612	3,647	935	3,409	39	8,642
必要病床数 (37年) b	993	2,818	2,623	2,523		8,957
差 引 c(a-b)	▲381	+829	▲1,688	+886		

出典 大阪府地域医療構想

- (注) 1. 平成26年度の病床機能報告は、他の医療機関の報告状況や地域医療構想及び同構想の病床の必要量（必要病床数）等の情報を踏まえていないことから、個別医療機関間、二次医療圏等の地域間、病床の機能区分等の比較の際は注意が必要。（厚生労働省地域医療構想策定ガイドライン）
2. 病床機能報告制度は、大阪府全体で約6,000床（本構想地域では約520床）が未報告または無回答となっている。

③ 当院の果たすべき役割

③-1 大阪府地域医療構想を踏まえた果たすべき役割

・ 高度急性期病床（HCU）8床、急性期病床275床を整備

現在、市内救急搬送の約4割が市外搬送となっている。新病院では、市民からの信頼を高めるため、高度急性期病床（HCU）8床を整備し、救急科を設置することで、救急受入体制を充実させ、市外への搬送を最小化することを目標とする。

また、急性期病床275床のうち腫瘍内科を42床、小児科を23床とすることで、需要の高いがん医療を充実させ、政策的医療として重要な小児医療専用病棟を引き続き設置する。

・ 回復期病床（緩和ケア病床）24床を整備

新病院においては、がんの症状に付随する痛み、倦怠感等の身体的な症状を緩和し、患者やその家族が「自分らしく」過ごせるよう療養環境の充実を目指し、緩和ケア病床を22床から24床に増床する。

③-2 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

本市では、平成19年度から20年度にかけて大阪府「地域包括ケア体制整備モデル事業」を受託し、他職種連携研修会等を実施してきた。

また、平成25年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

これらの組織に、当院の院長をはじめ病院職員が参画し、看護師とケアマネージャーとの協働による退院支援を検討するなど、在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

③-3 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

・ 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費（指定管理者に交付する政策医療交付金）

※ 当該年度の普通交付税の算定で定められる1病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限とする。

・ 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の1/2（ただし、平成14年度までに着手した事業の企業債元利償還金は2/3）

③-4 医療機能等の指標に係る数値目標

救急受入体制を充実させ、救急搬送受入率を高めることで、市民、地域医療機関に信頼される病院づくりに取り組んでいく。また、その他の診療科についても充実に努め、病床利用率を向上させること等により、経営の安定化に努めていくものとする。 ※ 数値目標は、「2. 数値目標の設定」に後掲。

③-5 市民の理解

当院の医療機能として、新病院開院時には、急性期医療を主軸に、高度急性期医療（救急医療）、回復期医療（がん医療）に注力していくことを、市ホームページや院内掲示等により市民等に周知していく。

2. 数値目標の設定

(令和元年度、令和2年度は見直し後、令和3年度は年次更新による数値目標)

○ 入院患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1日あたり患者数(人)	217	241	270	292	292	292	292	292
病床利用率(%)	70.7	78.5	87.9	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
診療単価(円)	49,000	48,934	51,500	59,961	61,925	72,200	73,000	73,000

○ 外来患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1日あたり患者数(人)	547	547	549	890	925	968	970	1,008
診療単価(円)	14,000	14,585	14,600	16,500	16,800	21,600	23,000	23,000

○ 救急患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
救急患者受入数(人)	7,600	8,400	10,050	16,500	17,000	11,000	11,000	11,000
市内救急搬送受入率 (A) ÷ (B) × 100 (%)	14.7	21.8	43.5	28.9	30.0	28.0	28.0	28.0
市内救急搬送 受入数(人) (A)	1,222	1,830	3,700	2,600	2,760	2,100	2,240	2,240
和泉市消防本部 搬送者数(人) (B)	8,300	8,400	8,500	9,000	9,200	7,500	8,000	8,000

○ 経常収支比率

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
経常収支比率(%)	101.4	101.6	103.0	105.7	105.0	108.8	109.0	109.0

3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表

新改革プラン実施状況の点検、評価、公表については、外部有識者で組織する「和泉市立病院経営評価委員会」を定期的で開催し、指定管理者による運営状況とあわせて、新改革プランの進捗状況について点検、評価し、その結果については、速やかに市民に公表していく。

和泉市消防本部 救急搬送件数(令和5年4月～令和6年3月)

<重症度別>

(括弧内は構成比 単位:人、%)

		死亡	重篤	重症	中等症	軽症	その他	令和5年度 合計(A)	令和4年度 合計(B)	前年同月比 (A)-(B)
市内	和泉市立総合医療センター	37	1	186	322	1,280	562	2,388 (23.0)	2,185 (22.5)	203 + 9.3%
	府中病院	47	0	235	539	1,678	744	3,243 (31.2)	3,221 (33.1)	22 + 0.7%
	咲花病院	0	0	11	42	102	42	197 (1.9)	145 (1.5)	52 + 35.9%
	光生病院	0	0	37	8	60	49	154 (1.5)	154 (1.6)	0 + 0.0%
	大阪母子医療センター	0	0	5	43	106	46	200 (1.9)	256 (2.6)	▲ 56 ▲ 21.9%
	その他	0	0	3	4	13	4	24 (0.2)	20 (0.2)	4 + 20.0%
	市内計	84	1	477	958	3,239	1,447	6,206 (59.7)	5,981 (61.5)	225 + 3.8%
市外	岸和田徳洲会病院	10	0	114	189	668	337	1,318 (12.7)	1,147 (11.8)	171 + 14.9%
	馬場記念病院	4	0	41	117	268	144	574 (5.5)	534 (5.5)	40 + 7.5%
	ベルランド病院	2	0	37	67	196	128	430 (4.1)	397 (4.1)	33 + 8.3%
	近畿大学病院	1	0	35	47	99	78	260 (2.5)	185 (1.9)	75 + 40.5%
	堺市立総合医療センター	4	0	25	45	92	80	246 (2.4)	190 (2.0)	56 + 29.5%
	岸和田市民病院	0	0	14	34	137	71	256 (2.5)	227 (2.3)	29 + 12.8%
	泉大津市立病院	0	0	1	17	70	43	131 (1.3)	124 (1.3)	7 + 5.6%
	高石藤井病院	0	0	6	15	33	29	83 (0.8)	50 (0.5)	33 + 66.0%
	その他	1	0	109	168	328	278	884 (8.5)	894 (9.2)	▲ 10 ▲ 1.1%
	市外計	22	0	382	699	1,891	1,188	4,182 (40.3)	3,748 (38.5)	434 + 11.6%
合計		106	1	859	1,657	5,130	2,635	10,388 (100.0)	9,729 (100.0)	659 + 6.8%

診療科別 紹介患者数(4月～3月)

(単位:人)

診療科名	R5	R4	増減	
				増減率 (%)
消化器内科	2,420	2,112	308	14.6
呼吸器内科	1,983	1,902	81	4.3
放射線科	1,605	1,485	120	8.1
歯科口腔外科	1,472	1,337	135	10.1
整形外科	841	887	▲ 46	▲ 5.2
耳鼻いんこう科	922	891	31	3.5
循環器内科	1,004	1,013	▲ 9	▲ 0.9
小児科	852	863	▲ 11	▲ 1.3
総合内科	337	312	25	8.0
泌尿器科	1,007	866	141	16.3
肝胆膵内科	699	644	55	8.5
乳腺内科	61	-	61	皆増
内分泌・糖尿病内科	525	489	36	7.4
リウマチ・膠原病内科	475	422	53	12.6
皮膚科	578	507	71	14.0
脳神経内科	551	561	▲ 10	▲ 1.8
脳神経外科	204	382	▲ 178	▲ 46.6
外科	495	465	30	6.5
婦人科	433	479	▲ 46	▲ 9.6
腫瘍内科 (緩和医療科含む)	362	466	▲ 104	▲ 22.3
形成外科	384	383	1	0.3
血液内科	242	228	14	6.1
呼吸器外科	197	170	27	15.9
腎臓・透析内科	144	139	5	3.6
乳腺外科	141	185	▲ 44	▲ 23.8
眼科	115	111	4	3.6
救急科	134	118	16	13.6
精神科	63	49	14	28.6
心臓血管外科	63	45	18	40.0
合計	18,309	17,511	798	4.6

※再診患者を含む。

診療科別 逆紹介患者数(4月～3月)

(単位:人)

診療科名	R5	R4	増減	
				増減率 (%)
歯科口腔外科	1,585	1,513	72	4.8
消化器内科	1,835	1,498	337	22.5
循環器内科	1,089	1,190	▲ 101	▲ 8.5
整形外科	709	913	▲ 204	▲ 22.3
放射線科	1,261	1,282	▲ 21	▲ 1.6
呼吸器外科	1,128	986	142	14.4
呼吸器内科	1,233	1,186	47	4.0
乳腺内科	150	—	150	皆増
総合内科	335	196	139	70.9
腫瘍内科 (緩和医療科含む)	212	499	▲ 287	▲ 57.5
肝胆膵内科	540	467	73	15.6
泌尿器科	428	417	11	2.6
内分泌・糖尿病内科	412	366	46	12.6
外科	474	436	38	8.7
耳鼻いんこう科	708	445	263	59.1
脳神経内科	455	378	77	20.4
皮膚科	95	189	▲ 94	▲ 49.7
脳神経外科	117	262	▲ 145	▲ 55.3
小児科	446	524	▲ 78	▲ 14.9
救急科	227	242	▲ 15	▲ 6.2
血液内科	173	163	10	6.1
リウマチ・膠原病内科	166	139	27	19.4
眼科	119	128	▲ 9	▲ 7.0
婦人科	80	71	9	12.7
腎臓・透析内科	81	85	▲ 4	▲ 4.7
乳腺外科	104	99	5	5.1
形成外科	56	36	20	55.6
精神科	33	15	18	120.0
心臓血管外科	39	14	25	178.6
合 計	14,290	13,739	551	4.0

診療科別単価 前年度比較

(常勤医師配属診療科のみ)

入院	R5	R4
外科	128,505円	104,549円
血液内科	119,942円	105,733円
心臓血管外科	106,740円	142,106円
循環器内科	96,914円	93,965円
婦人科	88,812円	83,449円
整形外科	84,589円	81,690円
泌尿器科	82,101円	82,120円
形成外科	73,923円	72,442円
耳鼻いんこう科	71,398円	72,703円
脳神経内科	67,738円	63,765円
歯科口腔外科	67,267円	64,262円
消化器内科	67,109円	66,889円
小児科	62,446円	68,741円
呼吸器内科	60,724円	67,284円
リウマチ・膠原病内科	56,664円	52,251円
腫瘍内科	55,371円	56,597円
肝胆膵内科	51,747円	52,504円
内分泌・糖尿病内科	49,642円	46,674円
皮膚科	48,857円	53,008円
脳神経外科	0円	55,622円
全診療科平均	78,879円	77,726円

外来	R5	R4
脳神経内科	90,204円	95,928円
腫瘍内科	94,292円	84,257円
血液内科	63,362円	67,909円
消化器内科	33,283円	22,398円
放射線科	29,933円	27,630円
外科	29,914円	15,867円
リウマチ・膠原病内科	26,691円	25,474円
呼吸器内科	25,569円	26,944円
肝胆膵内科	22,225円	17,954円
泌尿器科	21,422円	17,281円
救急科	14,436円	15,285円
婦人科	14,200円	12,776円
内分泌・糖尿病内科	14,029円	14,861円
心臓血管外科	11,768円	12,323円
循環器内科	11,263円	11,343円
小児科	10,981円	15,287円
脳神経外科	10,577円	9,515円
整形外科	9,132円	8,875円
耳鼻いんこう科	8,479円	8,455円
形成外科	8,389円	8,678円
腎臓・透析内科	7,917円	8,280円
歯科口腔外科	7,727円	8,259円
精神科	6,977円	6,732円
皮膚科	5,359円	5,530円
眼科	4,804円	5,022円
全診療科平均	24,378円	24,172円

診療科別待ち時間（4月～3月平均）

（単位：分）

	予約あり		予約なし		
	R5	R4	R5	R4	
呼吸器内科	9	9	21	23	
循環器内科	7	6	14	17	
肝胆膵内科	10	11	32	30	
消化器内科	7	6	19	23	
内分泌・糖尿病内科	4	4	24	25	
リウマチ・膠原病内科	14	11	18	26	
乳腺内科	9	-	27	-	
腫瘍内科	13	9	27	32	
血液内科	13	14	22	26	
腎臓・透析内科	7	7	12	16	
脳神経内科	10	9	16	17	
総合診療科	3	3	10	20	
精神科	16	16	20	23	
眼科	7	7	18	23	
耳鼻いんこう科	8	9	31	31	
外科	消化器外科	7	6	27	27
	呼吸器外科	4	3	26	19
	乳腺外科	8	11	76	35
整形外科	10	10	17	22	
心臓血管外科	9	10	17	12	
脳神経外科	4	9	14	22	
泌尿器科	15	14	36	30	
婦人科	18	20	32	35	
皮膚科	7	7	50	40	
形成外科	9	12	25	39	
小児科	7	7	14	20	
歯科口腔外科	10	8	82	77	
放射線科	3	2	18	24	
平均	10	10	26	26	

和泉市立総合医療センター 経営強化プラン（令和6～9年度）



令和6年3月

和泉市

はじめに

和泉市立総合医療センター開設者
和泉市長 辻 宏康

私が市長に就任した平成 21 年当時、市直営の市立病院は、救急医療の停止や、経営の悪化、施設の老朽化といった大きな課題を抱えていました。これらを解決すべく病院の再生に取り組みましたが、現実のままならず、指定管理者制度の導入を決断したところ、幸いにも、徳洲会グループという日本一の医療グループにパートナーになっていただいたことで、再生のスタートを切ることができ、新病院建設事業に着手することができました。

平成 30 年 4 月に新病院として「和泉市立総合医療センター」を開設したことにより、24 時間 365 日の救急医療の再開を果たし、今や病床稼働率が 100%を超えるなど、府内の公立病院でも例を見ないような優良な病院になり、患者さまに選んでいただける病院となっています。

また、令和 3 年 3 月には国から「地域がん診療連携拠点病院」の指定、令和 4 年 3 月には大阪府から「地域医療支援病院」の承認も受けるなど、地域医療の資質向上に繋がっております。

私が市長に初当選した平成 21 年当時から抱いておりました、「かつて泉州一といわれた市立病院をもう一度再生したい」との思いが、こうして現実となっていることは本当にうれしく、胸が熱くなる思いです。

この度、令和 6 年度から令和 9 年度を対象期間に策定しました「和泉市立総合医療センター経営強化プラン」に基づき、和泉市立総合医療センター経営評価委員会の評価をいただきながら、さらなる市民の医療サービス向上に取り組むとともに、市民皆様の健康を守り、命を輝かせる宝石箱のような病院、泉州一の隆盛を誇った頃の市立病院を取り戻せるような病院づくりに取り組んでまいります。

【目 次】

経営強化プランの策定にあたり	1
I. 病院事業のこれまでの取組	
1. これまでの経過	2
2. 指定管理者制度導入以降の状況	2
(1) 運営状況	
(2) 地域がん診療連携拠点病院	
(3) 地域医療支援病院	
(4) 救急医療	
(5) 災害時医療・感染症対策	
(6) 医療機器の充実	
3. 経営強化プランにおける6つの視点の検証	8
(1) 役割・機能の最適化と連携の強化	
(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組	
(5) 施設・設備の最適化	
(6) 経営の効率化等	
4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応	16
II. 新たな展開～具体的取組～	17
1. 医療環境の向上	
2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表	
○別紙1 収支計画書（指定管理者）	18
○別紙2 収支計画書（病院事業会計）	19

経営強化プランの策定にあたり

令和 3 年度、国において病院や経営主体の統合を主眼とした「新公立病院改革ガイドライン」の後継として、新たに病院間の役割分担と連携強化により持続可能な地域医療提供体制確保のため経営強化を主眼とした「公立病院経営強化ガイドライン」が策定され、病院設置自治体に令和 5 年度までに「公立病院経営強化プラン」を策定するよう通知があった。

この通知を受け、平成 30 年 4 月に新病院として開院した和泉市立総合医療センター（以下「当センター」という。）は、さらなる経営基盤の確立、安定した運営等を行っていくうえで、中核病院として必要な医療提供体制を確保するため、「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、開設者和泉市長と指定管理者医療法人徳洲会は「和泉市立総合医療センター病院経営強化プラン（令和 6～9 年度）」（以下「経営強化プラン」という。）を策定した。

当センターは、本経営強化プラン計画期間中において公設民営化の主眼であった 24 時間 365 日救急体制の充実、さらなる安全で質の高い医療を目指し、新興感染症の感染拡大時等に備えた感染症対策強化及び後期高齢者増加による今後見込まれる救急搬送者増加に対応する等の目的で増築棟を建設する。

また、本市は、附属機関である和泉市立総合医療センター経営評価委員会（以下「経営評価委員会」という。）において、今後も和泉市立病院新改革プランに代わって計画した本経営強化プランに基づく進行管理及び評価を頂き、歩みを止めずに当センターの病院改革に取り組んでいくものである。

なお、国等の動向、取巻く医療環境の変化により、必要に応じて計画を更新する場合がある。

I. 病院事業のこれまでの取組

1. これまでの経過

旧和泉市立病院（以下「旧病院」という。）は、昭和38年に病床数60床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和47年に設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

平成10年頃から、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成19年度には経常損失約16億円、不良債務（資金不足）約20億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成21年3月に策定した「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成20年度から平成27年までを計画期間とし、平成25年度に経常収支の黒字化、平成27年度に不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づき経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える3つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえ市議会での審議を経て、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成26年4月から指定管理者医療法人徳洲会による運営を開始した。

指定管理者による運営開始後は、救急医療の一部再開、一般会計からの赤字補てん補助金の解消により、慢性的な赤字体質からの脱却を図ることができた。もう一つの課題である施設の老朽化については、病院の経営及び市の財政状況は厳しく、建て替えは非常に困難を余儀なくされていたが、指定管理者制度を導入したことにより、民間のノウハウを活用することによる建設費用の抑制が見込まれたほか、指定管理者との間で、建設費用を折半することに合意できたことから、平成28年4月から新病院の建設に着手し、平成30年3月に完成、同年4月に当センターが開院した。

2. 指定管理者制度導入以降の状況

（1）運営状況

指定管理者制度導入前の平成25年度入院・外来患者数は1日平均入院が160人、外来が520人となっていたが、令和4年度には1日平均入院が310人（午前退院・午後入院含む）、外来が1,058人となり、指定管理者制度導入前と比較すると約2倍の数値となっている。

収支についても、平成25年度はマイナス約21億円となっていたが、令和4年度には約21億円と大幅な増益となった。また、常勤医師数についても、平成25年度は50人であったが、令和4年度は121人と大幅な増員となった。

○ 常勤医師数の推移（各年4月1日時点） （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	50	45	47	48	54	82	97	111	120	121	131

○ 入院患者数（1日平均）の実績 （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	160	166	201	218	230	299	309	295	309	310	—

※入院患者数は、午前退院・午後入院も各1カウントとしている。

○ 外来患者数（1日平均）の実績 ※午前退院・午後入院含む （単位：人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
外来	520	483	508	534	559	850	970	936	1,030	1,058	—

○ 収支の推移 （単位：百万円）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	▲2,114	▲335	▲207	▲4	40	1,154	818	2,217	2,553	2,172	—

○ 病床稼働率の実績（許可病床307床で算出） （単位：％）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	65.5	68.9	71.0	74.9	97.3	100.7	96.2	100.6	101.1	—

○ 診療単価の実績 （単位：円）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
入院	50,603	49,584	48,280	48,899	56,946	61,151	71,773	71,879	77,726	—
外来	11,380	14,016	13,938	13,657	16,447	19,047	21,223	22,286	24,172	—

○ 経常収支比率の実績 （単位：％）

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	93.7	96.6	99.9	100.7	112.8	107.3	118.4	119.4	117.5	—

(2) 地域がん診療連携拠点病院

旧病院時（平成 22 年度）にがんセンターを設置し、大阪府下の公立病院では初となる緩和ケア病棟を整備した。平成 23 年度からは大阪府指定のがん診療拠点病院になり、医療の特色のひとつとして取り組んできた。

平成 30 年 4 月 1 日に新病院として当センターが開院し、放射線治療装置トモセラピーの設置、緩和ケアや化学療法におけるチーム医療の推進、情報提供・相談体制の確立など、より充実したがん医療を提供できる体制となった。

また、令和 3 年 3 月、泉州二次医療圏では市立岸和田市民病院に続いて 2 番目、大阪府内では 17 番目となる地域がん診療連携拠点病院の国指定を受けた。

令和 3 年 4 月 1 日から 2 年間の指定（以降更新）で、医療圏域のがん患者を受入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施しており、当センターの緩和ケア病床 24 床は常時満床に近い稼働となっている。

令和 2 年 1 月から 12 月における当センター内がん登録数は 1,442 件、相談件数は 1,316 件となっている。また、令和 3 年 8 月にがんゲノム医療連携病院に指定され、がんゲノム医療を開始した。

厚生労働省が示す地域がん診療連携拠点病院については以下のとおりである。

[趣旨]

全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるよう、がん医療の均てん化を目指す。

[指定要件]

1. 診療体制（診療機能、従事者、医療施設）
2. 診療実績（患者登録数、悪性腫瘍手術件数、放射線治療等患者数）
3. 研修の実施体制
4. 情報の収集提供体制（がん相談支援センター、がん登録、情報提供・普及啓発）
5. 臨床研究及び調査研究
6. PDCA サイクルの確保
7. 医療に係る安全管理

(3) 地域医療支援病院

地域医療支援病院とは、平成 9 年 4 月の医療法改正で制度化された医療施設機能の体系化の一環で、主な役割は、地域完結型医療における中心的な役割を担うものとなっている。

地域の診療所等のかかりつけ医が初期対応を受け持ち、専門的治療や高度検査、入院治療、救急医療等を受け持つ地域の中核病院として当センターは、令和 4 年 3 月、地域医療支援病院の承認要件を満たし大阪府知事から承認を受けた。

地域の医療機関に MRI、CT など紹介により引き続き医療機器を利用いただいている。当センターにおいて検査・読影を行い、結果を素早く報告し、少しでも診療の一助になるよう日々努めている。また、地域の医療従事者に対する研修として、全身性エリテマトーデス、顕微鏡的多発血管炎の治療の考え方や、肺がん治療最新の進歩をはじめとして、令和 4 年度は研修会を 16 回開催し、延べ 293 人の地域の医療従事者が参加した。和泉の

地域医療を考えるシンポジウムも行った。

○ 紹介率、逆紹介率の推移 (単位：%)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
紹介率	51.8	54.7	64.4	68.8	72.9
逆紹介率	45.6	68.5	84.9	88.6	91.7

※承認要件上の数値であり、公表上の数値とは異なる。

厚生労働省が示す地域医療支援病院については以下のとおりである。

[趣旨]

医療施設機能の体系化の一環として、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用の実施等を通じて、第一線の地域医療を担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医等を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有する病院。

[役割]

- ・ 紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）
- ・ 医療機器の共同利用の実施
- ・ 救急医療の提供
- ・ 地域の医療従事者に対する研修の実施

[承認要件]

- ・ 開設者は、国、都道府県、市町村、社会医療法人、医療法人等であること。
- ・ 紹介患者中心の医療を提供していること。
 1. 紹介率が80%以上であること。
 2. 紹介率が65%以上であり、かつ、逆紹介率が40%以上であること。
 3. 紹介率が50%以上であり、かつ、逆紹介率が70%以上であること。
- ・ 救急医療を提供する能力を有すること。
- ・ 建物、設備、機器等を地域の医師等が利用できる体制を確保していること。
- ・ 地域医療従事者に対する研修を行っていること。
- ・ 200床以上の病床を有すること。
- ・ 医療法に規定する施設を有し、構造設備が要件に適合すること。

[患者、病院の利点]

- ・ 各医療機関の役割分担により、必要かつ良質な医療が身近に受けられる。
- ・ 事前予約による待ち時間が軽減される。
- ・ 診療情報の共有により検査の重複を回避でき、時間や費用の負担が軽減できる。
- ・ 地域医療支援病院と地域かかりつけ医との安心・安定した医療の支援ができる。
- ・ 入院加算が得られ、入院収益の増収により、病院経営の安定に繋がる。

(4) 救急医療

平成28年度から令和4年度における当センターの救急患者数及び和泉市消防本部救急搬送件数の推移は下表のとおりである。

当センターがオープンした平成30年4月から24時間365日体制で救急医療を実施しており、受入件数が大幅に増加したが、令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により受診控え等による救急搬送件数の減少に伴い、当センターにおいても受入件数が減少した。

今後も更なる救急体制強化に取り組み、救急患者の受入数を増やし、救急搬送受入率について改善を図り地域医療に貢献していく。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
救急患者数		10,080	10,370	14,820	14,874	10,208	12,710	13,852
うち救急搬送者	小児科	410	417	447	454	252	335	530
	内科・外科系	1,506	1,564	3,079	3,103	2,553	2,545	3,068
	合計	1,916	1,981	3,526	3,557	2,805	2,880	3,598

○ 和泉市消防本部救急搬送件数の推移

(単位：件、%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
当センター	1,363 (16.5)	1,329 (15.7)	2,351 (26.3)	2,303 (25.7)	1,780 (23.8)	1,779 (21.4)	2,185 (22.5)
市内他病院	3,693 (44.6)	3,971 (47.0)	3,798 (42.4)	3,657 (40.8)	3,269 (43.6)	3,556 (42.9)	3,796 (39.0)
市外病院	3,222 (38.9)	3,151 (37.3)	2,804 (31.3)	3,004 (33.5)	2,438 (32.6)	2,964 (35.7)	3,748 (38.5)
合計	8,278 (100.0)	8,451 (100.0)	8,953 (100.0)	8,964 (100.0)	7,487 (100.0)	8,299 (100.0)	9,729 (100.0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

○ 和泉市消防本部からの救急患者受入率

(単位：%)

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
消防本部からの救急患者受入率	16.5	15.7	26.3	25.7	23.8	21.4	22.5

(5) 災害時医療・感染症対策

災害時、当センターは市地域防災計画等に基づき、重要な医療提供拠点である。平成30年10月に当センターは災害対応マニュアルを作成し、あらゆる災害に備え、関係機関と共同で年1回災害時医療訓練を実施している。また、医療提供体制の確認、受入可能状況の情報伝達、トリアージ、救急搬送等の訓練を通じ、共通認識を確認し、災害時に機能できるように備えている。

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受入れ、また、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきた。

感染症対策については、「経済財政運営と改革の基本方針 2020」（令和 2 年 7 月 17 日閣議決定）では、感染症への対応の視点も含めて、質が高く効率的で持続可能な医療提供体制の整備を進めるため、可能な限り早期に工程の具体化を図るとされている。本来、感染症の治療については、法律による感染症の分類により対応すべき医療機関として感染症指定医療機関が決められていることから、当センターは、大阪府と新興感染症に備えた医療措置協定を締結し、第一種協定指定医療機関として指定されている。大阪府知事の要請に応じて最大 30 床の病床確保を行う。

また、新型コロナウイルス感染症等新興感染症治療を行う診察室や待合スペース狭小等の課題に対し、感染症対策の強化等の為、増改築を行うことで検査場所及び専用病床等の確保により受入体制強化を図り、市と指定管理者が連携して取り組んでいく。

（6）医療機器の充実

医療機器において、当センターは開院時に必要となった機器を新規導入し、翌年度以降も、医療環境のさらなる充実を図っているところであるが、旧病院時から使用している医療機器・検査機器等の更新が必要であり、近年の医療ニーズや診療体制等を踏まえ、必要性や優先度を確認し、今後も更新していく。

なお、主な医療機器の導入状況は下表のとおりである。

○医療機器導入状況

購入年度	医療機器名
H26	320 列 CT
H29	放射線治療装置トモセラピー、3.0 テスラ MRI、血管造影装置、一般撮影装置 2 台、デジタル X 線 TV システム、SPECT 診断装置
H30	1.5 テスラ MRI、80 列 CT、歯科口腔外科開設用医療機器、一般撮影装置
R1	3D 画像診断装置、気管支内視鏡システム、心臓カテーテルモニタリングシステム
R2	手術支援ロボットダヴィンチ
R3	心臓血管外科用医療機器
R4	健診用・病理検査用等医療機器

3. 経営強化プランにおける6つの視点の検証

(1) 役割・機能の最適化と連携の強化

① 地域医療構想等を踏まえた当センターの果たすべき役割・機能

当センターは、高度急性期病床283床（内、ICU8床）、回復期病床（緩和ケア病床）24床の合計307床の病床で運用しており、需要の高いがん医療、難病医療、呼吸器疾患及び政策的医療として小児医療を実施している。今後は、救急患者の受入れ強化・拡充を図るため、令和7年度増築棟開設時に合わせ高度急性期病床283床のうち最大24床を高度治療室（HCU）へ転換を図る。本計画期間中の令和7年～9年度についても、高度急性期機能を中心とした医療を実施していく方針であり、病床機能・病床数に変更はない。

この先、人口減少や高齢化社会が進む中、地域医療構想を踏まえ、当センターは地域における基幹的な公的医療機関として、地域医療確保のため重要な役割を担っていく必要があり、医療ニーズの質・量の変化や労働力人口の減少を見据え、質の高い医療を効率的に提供できる体制づくりを構築し、医療機関の機能分化・連携に取り組む必要がある。

なかでも、救急、小児、災害、感染症についての医療提供が特に重要視されていることから、当センターとしては、市内の医療機関だけでなく、泉州二次医療圏の医療機関とも連携を図り、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）と電子カルテの相互利用により、日常の診療内容が確認できるなど救急患者の安全性向上や切れ目のない病院間の連携、さらに、診療科目や病院の特色を補完しあいながら運営することにより地域における医療機能の共有化など連携強化を図っていく。

年度	高度急性期	回復期
R5	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：258床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1
R7 ～ R9	283床<下記内訳> 特定集中治療室管理料1：8床 ハイケアユニット入院医療管理料:最大24床 小児入院医療管理料4：17床 急性期一般入院料1：234床 (専ら悪性腫瘍を診療する病床を含む)	24床 緩和ケア病棟入院料1

② 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

平成 25 年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

当センターは、地域の実情も把握し、これからの社会にふさわしい医療と介護の連携を強化する地域の中核病院として、がん地域連携パス制度や連携登録医制度の導入、地域医療支援病院運営委員会の設置、地域の医療介護研修会などにより、市内の慢性期病院等の医療機関や介護施設等との連携に努めつつ在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

また、指定管理者である医療法人徳洲会は、新たに市内に特定施設入居者生活介護、認知症共同生活介護の介護施設を令和 6 年中（予定）に設け、住み慣れた地域での生活拠点を整備する。

医療と介護の連携目標

(単位：回)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
地域医療支援病院運営委員会	4	4	4	4	4
地域の医療介護研修会	8	8	8	8	8

③ 機能分化・連携強化

指定管理者制度導入後、医師数、入院・外来患者数が増加するとともに、収支も大幅な増益となり黒字転換するなど経常収支は高水準となっている。

新病院建設時に計画していた医師数や外来患者数より大幅増加したことから、診療スペース、待合スペースの外来機能が低下してきていることから、診療の実情を踏まえ、地域医療提供体制との連携も図ったうえで、増築棟を新たに建設（令和 7 年度完成予定）及び現建築物の改修を行い、外来機能スペース等を拡張する。がんセンターにおいては、外来化学療法室、がん相談支援センターを拡張、新たにがんゲノム外来を設置し、更なる充実を図る。また、増築棟には市民の医療ニーズに沿った難病センター、呼吸器センターを新たに設置し、更なる医療サービス向上に努める。

また、連携強化においては、令和 4 年 3 月に「地域医療支援病院」の承認を受け、地域の医療機関とより密に連携し、紹介率・逆紹介率の向上に取り組むと同時に、小児医療を専門とする地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センターと令和 4 年 10 月に「地域医療における住民の健康と健やかな成育支援等に関する連携協定」を締結し、更なる質の高い医療提供及び地域医療の連携強化に取り組む。医師等の派遣については、地域において、派遣ニーズがないため実施していないが、今後の状況に応じて検討を行い、医療水準の向上と持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
外来機能向上	増築棟建築 の設計	増築棟建築	がんセンター、難病センター、 呼吸器センター運営		

④ 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

本プランの最終年度である令和 9（2027）年度を目途に次の数値目標を設定

年 度	R5	R6	R7	R8	R9
救急搬送者数（人）	3,800	3,900	4,000	4,100	4,200
手術件数（手術室内）	3,102	3,326	3,551	3,775	4,000
患者満足度（％）	82.1	82.8	83.6	84.3	85.0
在宅復帰率（％）	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
クリニカルパス利用率（％）	52.8	53.4	53.9	54.5	55.0
紹介率（％）	73.3	73.7	74.2	74.6	75.0
逆紹介率（％）	92.0	92.3	92.5	92.8	93.0
臨床研修医の受入件数（人）	8	9	9	9	9
健康・医療相談件数（件）	2,100	2,100	2,100	2,100	2,100

⑤ 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

(1) 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費

（指定管理者に交付する指定管理料）

※当該年度の普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限。

(2) 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の 1/2

（ただし、平成 14 年度までに着手した事業の企業債元利償還金は 2/3）

年度	R5	R6	R7	R8	R9
指定管理料	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価(72 万円) ×病床数	普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価×病床数			
市償還金	病院の建設改良に要する経費×1/2				

⑥ 住民への取組周知

平成 30 年 4 月に新病院として開院した当センターは、設計段階の旧病院時代、1 日の平均外来患者数 559 人と比較すると令和 4 年度 1,058 人と約 2 倍に激増する状況となり、診察室や待合スペース狭小等の課題が生じている。

そのため、利用者の利便性の向上及び感染症対策の強化等を目的として、当センターの増改築を行うことで、さらに高度急性期医療、急性期医療、回復期医療（緩和）に注力していくことを、市ホームページや院内掲示等により市民等に周知する。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増改築等に関すること	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	広報 ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示	ホームページ 院内掲示

(2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

① 医師・看護師等の確保数値目標

平成 26 年 4 月より指定管理者である医療法人徳洲会が運営を行っている。平成 30 年 4 月に新築移転し、病院機能の拡大に伴い職員数は増加となった。

今後も職員確保、定着を向上させていくために「魅力ある職場づくり」を進めていく。そのためには、「働きがい」「働きやすさ」の意識向上が重要である。職員ひとりひとりが市民から信頼されているという意識をもてるような職場環境づくり、日進月歩する医療を学ぶ環境、知識、技術習得するための研修支援の提供、話し合える職場環境を整え職員確保に努める。

(単位：人)

年度 (常勤)	R5	R6	R7	R8	R9
医師	131	137	140	140	140
看護師	338	358	365	365	365
技師	126	130	135	140	145
薬剤師	27	30	32	35	38

② 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保数値目標

多くの診療科を取り揃えた基幹型臨床研修病院として令和 3 年度は 7 人、令和 4 年度は 7 人の初期臨床研修医の受入を行っており、新たに令和 5 年度は 8 人、令和 6 年度は 9 人を受け入れる予定である。また、専門研修プログラムもあるため、初期研修終了後も当院で継続して研修が可能である。令和 6 年度に卒後臨床研修評価 (JCEP) を取得予定。研修の質の改善・向上に努めている病院としてさらに認知度を高め、若手医師の確保を図る。

(単位：人)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
研修医受入	8	9	9	9	9

③ 医師の働き方改革への対応

令和 6 年度より医師の時間外労働の上限規制が開始されることから、宿日直許可申請をはじめ、医師の負担軽減を図るべく職員数の確保、適切な労務管理の推進、

ワークシェア・タスクシフトの推進などを組織的に取り組み、A 水準（年 960 時間未満）を目指す。宿日直許可については 3 つの区分で許可済、2 つの区分を許可申請予定。

（単位：人）

年度	R6	R7	R8	R9
時間外労働	A 水準（960時間未満）			

（3）経営形態の見直し

平成 26 年 4 月から指定管理者制度を導入しており、指定管理者の民間のノウハウを活かしながら健全経営に向けた取り組みを行っている。導入後は、救急医療の再開、市からの赤字補填補助金の解消、当センターの建設が実現し、着実に病院機能が再生し、医療の安定提供など効果が現れている。なお、この経営形態の見直しについて、平成 30 年 3 月に公表された「地方公営企業の抜本的な改革等に係る先進・優良事例集」（総務省自治財政局公営企業課）に掲載され、先進事例として評価された。

さらに、平成 30 年度に 32 診療科 82 人の医師体制にて当センターがオープンしてからは、救急医療の実施、放射線治療装置トモセラピーの導入、MRI・CT など検査機器の充実、手術支援ロボットダヴィンチの導入、国の地域がん診療連携拠点病院の指定、大阪府の地域医療支援病院の認定などの取り組みにより医療水準の向上を図った。

医療水準向上の主な取り組みとして、①医師確保、②救急・急性期医療においては、救急科の設置、24 時間 365 日体制での救急医療を実施、③がん医療においては、高精度放射線治療装置トモセラピーを整備、外来化学療法室・緩和ケア病棟の充実、④難病センター、呼吸器センターの整備、⑤その他の医療機能においては、内分泌・糖尿病内科、脳神経内科の新設、人工透析室の整備等を行った。

これらにより、想定をはるかに超える入院・外来数となり、大幅に収支が好転し経営健全化を達成できた。なお、常勤医師数の推移、入院・外来患者数や病床稼働率、診療単価、経常収支比率の実績と目標数値との比較については、下表のとおりである。

今後においても医療水準の向上とともに、継続的に外部有識者による経営評価委員会において運営状況を点検、評価して、持続可能な経営基盤の確保を行っていく。

【経営強化プランにおける数値目標】

経営強化プランにおける数値目標設定の考え方

- ・令和 6 年 4 月から増築工事、令和 7 年新館増築棟オープン予定。
- ・令和 7 年 8 月から本館改修工事、令和 8 年全体オープン予定。
- ・待合スペースの拡張、診察室の増室（46 室⇒約 70 室）を図る。
- ・救急医療の受入拡充、感染症対策に伴う病床等の受入体制強化を図る
- ・がんセンター拡張による診察室の増室（4 室⇒約 8 室）を図る。
- ・化学療法用ベッドの増床（17 床⇒約 30 床）を図る
- ・透析室拡張による透析用ベッドの増室（12 床⇒約 30 床）を図る。
- ・健診センター拡張による人間ドック、特定健診の受入拡充を図る。

○入院患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1日あたり患者数（人）	292	292	295	295
病床利用率（％）	95	95	96	96
入院診療単価（円）	77,880	77,880	77,880	77,880

○外来患者数等の目標数値

年度	R6	R7	R8	R9
1日あたり患者数（人）	1,008	1,008	1,050	1,100
外来診療単価（円）	23,150	23,150	23,150	23,150

○和泉市消防本部からの救急患者受入率

年度	R6	R7	R8	R9
救急搬送受入率（％）	28.0	28.0	30.0	30.0

（４）新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

今般の新型コロナウイルス感染症の対応において、当センターは、診療・検査医療機関、軽症・中等症・重症患者の入院受け入れ病院及びワクチンの集団接種会場と複数の機能を担い、地域の中核的な医療機関としての役割を可能な限り果たしてきたが、感染症への対応を念頭に置いて建設された建物ではないこともあり、設備・人員体制が不十分なもとでは自ずと限界があった。

当センターは、感染症対策強化等のため、増築棟（令和 7 年度完成予定）を整備することで感染拡大時に活用しやすい病床や転用しやすいスペース等を整備し受入体制強化を図ります。また、感染拡大時における各医療機関間での連携・役割分担の明確化、感染拡大時を想定した専門人材の確保・育成、感染防護具等の備蓄、院内感染対策の徹底、クラスター発生時の対応方針等について、より具体的な内容に医療関連感染防止マニュアルを改訂し、それを実践することにより、新興感染症の感染拡大時に備えてまいります。

また、大阪府が策定する第 8 次医療計画（令和 6 年度～）の記載事項として「新興感染症等の感染拡大時の医療」が盛り込まれることになっていきますので、これと整合性のとられた内容となるよう改定します。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
医療関連感染防止マニュアル	国基準に合わせ改訂				

(5) 施設・設備の最適化

①施設・設備の適正管理と整備費の抑制

平成 26 年 4 月から指定管理者制度により医療法人徳洲会が運営を行い民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、当センターの建設が実現し、着実に病院再生し、医療の安定提供など効果が現れている。

患者数の増加に伴う診察室や待合スペース狭小等による課題に対し、利用者の利便性の向上及び感染症対策強化等を目的とした当センターの増築棟を整備することについては、指定管理者の専門的な知見を活用すること等により整備費の抑制を図る。

年度	R5	R6	R7	R8	R9
増築棟の整備 及び 本館改築工事	増築棟建築 の設計	増築棟工事	増築棟工事 本館改築工事	—	—

②デジタル化への対応

電子カルテ及びマイナンバーカードの健康保険証利用（オンライン資格確認）並びにその他各種情報システム等を活用し、医療の質の向上、医療情報の連携及び働き方改革の推進と病院経営の効率化を目指す。なお、電子カルテについては、指定管理者である医療法人徳洲会が使用するシステムを平成 26 年度から導入し三次救急医療機関である協力・支援病院の岸和田徳洲会病院とシステム連携を行っている。また、同法人が令和 5 年度から指定管理を開始した本市の和泉診療所とも連携を開始した。

万一、サイバー攻撃による被害が生じた場合であっても、独自システムによりそれらを最小限に抑えられるよう情報セキュリティ対策に努める。

(単位：件)

年度	R5	R6	R7	R8	R9
情報セキュリティ対策	医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき対策				
漏洩・被害	0	0	0	0	0

(6) 経営の効率化等

① 経営指標に係る数値目標

指定管理者制度導入により収支黒字を達成している状況である。

計画期間中の経営に関する数値目標は、指定管理者が計画する別表 1（参考資料）令和 4 年度収支計画である。

② 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等

○経常収支比率の実績、目標数値比較 (単位：%)

年度	R6	R7	R8	R9
経常収支比率	109	109	108	108
修正医業収支比率	108	108	107	107

4. 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証要請の対応

国は、令和元年9月に個別の公立・公的医療機関等に係る急性期機能等の診療実績等によるデータ分析に基づいて、実績が少ない又は診療領域が類似かつ地理的に近接する病院がある医療機関を公表し、地域医療構想の取組を推進すべく具体的対応方針の再検証要請を通知した。

大阪府内医療機関においては、当センターを含め11医療機関が再検証要請となり、令和2年3月30日の第53回大阪府医療審議会において、各医療圏での審議を踏まえ、2医療機関が継続協議となり、残りの9医療機関が方向性について合意がなされた。

当センターにおいては、厚生労働省が再検証した分析データは平成29年度の旧市立病院時のものであったことから、平成30年度新築移転後の診療実績及び医療圏域における当センターの役割が再認識され、再編統合等をする必要なく現状の医療方針にて合意がなされたところである。

Ⅱ. 新たな展開～具体的な取組～

1. 医療環境の向上

当センターはオープンして5年が経過したが、入院患者等利用者が快適に使用していただけるよう適正な施設の維持管理に努めてきた。

令和4年度には、1日平均の外来患者数1,058人となり、新改革プランでの想定数(平成30年度549人)をはるかに上回り、外来待合スペースが手狭な状況になっている。

医師確保に伴い、診療コマ数を増加することができた反面、外来診療スペース等が不足している。さらに、当センターの診療の特色のひとつであるがん診療においては、国の地域がん診療連携拠点病院の指定を受け、がん治療の治験・臨床試験等のがんセンターの機能拡充や化学療法スペースの更なる確保が課題である。

また、2024年4月より難病診療連携拠点病院に指定されたことで泉州医療圏内の難病疾患患者に対して早期診断、早期治療を行える地域と連携した体制づくりが課題である。加えて、国の医療政策に則った在院日数の短縮化を見通して、地域を巻き込み、専門医療の継続が可能になるような体制づくりが必要になる。

このことから、外来機能を中心としたがん医療、難病医療、呼吸器医療、感染症対策に対応する増築棟を新たに建築し、引き続き、質の高い医療サービス向上に取り組む。

また、災害時医療についても強化が必要であり病院全体として取り組んでいく。

2. 経営強化プランの実施状況の点検、評価、公表

当センターにおいては、附属機関として管理運営が適切に実施されているか確認、評価し、医療水準の維持及びサービスの向上につなげるため外部有識者で組織する経営評価委員会を設置し、中間期及び決算期において年2回評価を頂いている。

経営評価委員会には、指定管理者の医師・看護師等が参加し、指定管理者による公立病院として期待される役割・機能の発揮状況等について、本経営強化プランの指標及び進捗状況を評価シートに基づき点検、評価、検証を行い、その結果を速やかに公表し、今後も点検・評価結果を基に医療サービスの向上のため病院改革に取り組んでいく。

別紙 1 収支計画書（指定管理者）

（単位：人、円）

		R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
入院	1日平均入院患者数	285.7	292.0	292.0	292.0	295	295
	1人1日当り診療額	77,726	77,880	77,880	77,880	77,880	77,880
外来	1日平均外来患者数 ※1	1,058.0	1,122	1,117	1,122	1,202	1,266
	1人1日当り診療額	23,136	23,150	23,150	23,150	23,150	23,150

（単位：百万円）

項 目		R4年度 実績	R5年度 見込	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
入院収入計	入院収入計	8,802	9,006	9,006	9,006	9,006	9,006
	外来収入計	6,072	6,337	6,337	6,337	6,760	7,182
診療収入合計		14,874	15,343	15,343	15,343	15,766	16,188
医業収入合計	室料差額収入	131	133	133	133	135	135
	文書料収入	23	26	26	26	28	30
	その他収入	318	320	320	320	325	330
	保険等調整増減	▲132	▲136	▲136	▲136	▲140	▲144
医業収入合計		15,214	15,686	15,686	15,686	16,114	16,539
医業原価合計	医薬品費	3,445	3,984	3,984	3,984	4,109	4,218
	医療消耗品費	1,037	1,065	1,065	1,065	1,098	1,127
	その他	377	469	469	469	483	496
医業原価合計		4,859	5,518	5,518	5,518	5,691	5,841
医療機器リース料		54	55	55	55	57	59
医療機器減価償却費		36	37	37	37	38	39
人件費合計	医師給与	1,338	1,375	1,375	1,375	1,478	1,478
	その他	5,030	5,166	5,166	5,166	5,328	5,468
人件費合計		6,368	6,541	6,541	6,541	6,806	6,946
医業経費合計	水道光熱費	177	182	182	206	226	232
	保守衛生費	12	12	12	12	13	13
	その他	1,927	1,979	1,979	1,979	2,041	2,095
医業経費合計		2,116	2,173	2,173	2,197	2,280	2,340
医業費用合計		13,433	14,324	14,324	14,349	14,871	15,225
医業利益		1,781	1,362	1,362	1,337	1,243	1,314
その他費用計	減価償却費	25	26	26	26	26	27
	その他費用計	25	26	26	26	26	27
医業外収益合計	その他収益	1,208	547	547	547	564	579
	医業外収益合計	1,208	547	547	547	564	579
医業外費用合計	その他費用	514	528	528	528	544	559
	医業外費用合計	514	528	528	528	544	559
経常利益		2,450	1,355	1,355	1,330	1,236	1,307
臨時収益		21					
臨時費用		338					
協力負担金		152	156	156	156	161	165
税引前利益		1,939	1,199	1,199	1,174	1,075	1,141
医業費収支比率		113%	110%	110%	109%	108%	109%
修正医業収支比率		112%	108%	108%	108%	107%	107%
経常収支比率		118%	109%	109%	109%	108%	108%
給与費率		42%	42%	42%	42%	42%	42%
材料費率		32%	35%	35%	35%	35%	35%

※1 年延外来患者数÷診療日数

※2 徳洲会グループ全体での計画調整により変更の可能性あり

別紙2 収支計画書(病院事業会計)

収益の収支

(単位:百万円、%)

区分		年度					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収	1. 医業収益 a	217	228	228	228	228	228
	(1) 料 金 収 入	0	0				
	(2) そ の 他	217	228	228	228	228	228
	2. 医業外収益	565	556	484	462	461	444
	(1) 他会計負担金・補助金	66	66	66	66	66	66
	(2) 国(県)補助金	0	0	0	0	0	0
	(3) 長期前受金戻入	412	404	332	309	307	294
	(4) そ の 他	87	86	86	87	88	84
	経常収益(A)	782	784	712	690	689	672
	支	1. 医業費用 b	1,154	1,129	1,010	955	922
(1) 職 員 給 与 費		0	0	0	0	0	0
(2) 材 料 費		0	0	0	0	0	0
(3) 経 費		25	68	68	68	68	68
(4) 減 価 償 却 費		908	840	721	666	633	616
(5) そ の 他		221	221	221	221	221	221
2. 医業外費用		83	74	74	74	74	71
(1) 支 払 利 息		74	74	74	74	74	71
(2) そ の 他		9	0	0	0	0	0
経常費用(B)		1,237	1,203	1,084	1,029	996	976
経常損益(A)-(B)(C)	▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304	
特別損益	1. 特別利益(D)	0	0	0	0	0	0
	2. 特別損失(E)	0	0	0	0	0	0
	特別損益(D)-(E)(F)	0	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	▲ 455	▲ 419	▲ 372	▲ 339	▲ 307	▲ 304	
累 積 欠 損 金 (G)	13,857	14,276	14,648	14,987	15,294	15,598	
資金不足額	流動資産(H28まで貸倒引当金を除く)(ア)	2	2	2	2	2	2
	流動負債(翌年度償還企業債を除く)(イ)	2	2	2	2	2	2
	うち一時借入金	0	0	0	0	0	0
	翌年度繰越財源(ウ)	0	0	0	0	0	0
	当年度許可債で未借入又は未発行の額(エ)	0	0	0	0	0	0
	資金不足額(健全化法施行令第16条((イ)-(エ))-((ア)-(ウ)))(オ)	0	0	0	0	0	0
	健全化法第22条により算定した資金不足比率	-	-	-	-	-	-
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$	63.2	65.2	65.7	67.1	69.2	68.9	
医業収支比率 $\frac{a}{b} \times 100$	18.8	20.2	22.6	23.9	24.7	25.2	
地方財政法施行令第19条第1項により算定した資金の不足額(H)	0	0	0	0	0	0	
地方財政法による資金不足の比率 $\frac{(H)}{a} \times 100$	-	-	-	-	-	-	

資本的収支

年度		年度					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収入	1. 企業債	83	200	420	400	200	600
	2. 他会計出資金	632	600	579	550	506	437
	3. 他会計負担金	0	0	0	0	0	0
	4. 他会計借入金	0	0	0	0	0	0
	5. 他会計補助金	0	0	0	0	0	0
	6. 国（県）補助金	0	0	0	0	0	0
	7. 工事負担金	0	0	0	0	0	0
	8. 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	0
	9. その他	480	374	353	325	352	356
	収入計 (a)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	0
	前年度同意等債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0
	純計(a)-(b)+(c) (A)	1,195	1,174	1,352	1,275	1,058	1,393
	支出	1. 建設改良費	83	200	420	400	200
2. 企業債償還金		1,162	987	945	888	874	812
3. 他会計長期借入金返還金		0	0	0	0	0	0
4. その他		0	0	0	0	0	0
支出計 (B)		1,245	1,187	1,365	1,288	1,074	1,412
差引不足額 (B)-(A) (C)		50	13	13	13	16	19
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	0	0	0	0	0	0
	2. 利益剰余金処分量	0	0	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0	0	0
	4. その他	50	13	13	13	16	19
計 (D)		50	13	13	13	16	19
補てん財源不足額 (C)-(D) (E)		0	0	0	0	0	0
当年度許可債で未借入又は未発行の額 (F)		0	0	0	0	0	0
実質財源不足額 (E)-(F)		0	0	0	0	0	0

一般会計等からの繰入金の見通し

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収益的収支	261	260	260	260	260	258
資本的収支	632	600	579	551	506	437
合計	893	860	839	811	766	695